



Cisco Unified Communications Manager, Release 11.0(1) アップグレードガイド

初版：2015年06月08日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。



目次

はじめに ix

目的 ix

対象読者 ix

構成 ix

関連資料 x

表記法 xi

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート xiii

シスコ製品のセキュリティの概要 xiii

使用する前に 1

Cisco Unified Communications Manager について 1

IM and Presence サービスについて 1

システム トポロジについて 1

アップグレードの計画 3

要件および制約事項 3

システムの制限 4

サブネットの制限 4

クラスタ サイズ 4

クラスタ間ピアのサポート 4

パラメータの設定 4

ネットワークの要件 5

IP アドレス要件 5

DNS の要件 5

SFTP サーバのサポート 5

プラットフォーム要件 6

対応プラットフォーム 6

ESXi および VMware ツール 7

OVA テンプレート	7
電源モジュール	7
ソフトウェア要件	8
ブラウザ要件	8
アップグレードの時間の要件	9
アップグレード所要時間に対するスロットリングの影響	9
アップグレード後のシステム可用性	9
サポートされているアップグレードパス	9
バージョン要件	9
Cisco Unified Communications Manager のアップグレードパス	10
IM and Presence サービスのアップグレードパス	10
Cisco Unified Presence Release 8.5(4) からのアップグレード	11
ライセンスング	12
Cisco Unified Communications Manager のライセンス要件	12
IM and Presence ライセンスの要件	12
Export Unrestricted バージョン	13
アップグレードの概要	17
アップグレードの種類	17
標準アップグレード	17
更新アップグレード	18
COP ファイル	18
COP ファイルのインストール	20
アップグレードプロセス	20
アップグレードファイルへのアクセス	23
アップグレードタスクのリスト	23
Unified Communications Manager ノードと IM and Presence ノードの標準アップグ レード	24
Unified Communications Manager ノードと IM and Presence ノードの更新アップグ レード	26
Unified Communications Manager ノードだけを標準アップグレード	28
Unified Communications Manager ノードだけを更新アップグレード	30
IM and Presence ノードだけを標準アップグレード	31

IM and Presence ノードだけを更新アップグレード	33
並行アップグレード	35
アップグレード前の作業	37
アップグレード前の作業の実行	37
仮想マシン構成仕様の変更	40
vSphere ESXi のアップグレード	41
アップグレード ファイルの取得	42
仮想ディスク サイズの拡大	42
アップグレード作業	45
はじめる前に	45
アップグレード手順	46
ローカル ソースからのアップグレード	46
リモート ソースからのアップグレード	48
バージョンの切り替え	50
ソフトウェア バージョンの切り替え	52
以前のバージョンへの切り替え	53
以前のバージョンへのクラスタの切り替え	54
以前のバージョンへのノードの切り替え	54
データベース レプリケーションのリセット	55
Cisco Unified Presence 8.6(3) 以前のバージョンへの切り替え	55
アップグレード後の作業	57
すべてのノードのアップグレード後の作業	57
VMware ツールの更新	57
ロケールのインストール	57
Cisco Unified Communications Manager へのロケール インストーラのインストール	59
IM and Presence Service へのロケール インストーラのインストール	61
エラー メッセージ	63
対応製品	65
Cisco Unified Communications Manager ノードのアップグレード後の作業	65
設定の復元	65
機能のテスト	66

ダイヤルプランのインストール	67
TFTP サーバ ファイルの管理	67
カスタム ログイン メッセージのセットアップ	68
IPsec ポリシーの設定	69
廃止されたクラスタ間ピアユーザおよび管理者 CUMA への新しいロールの割り当て	69
IM and Presence ノードのアップグレード後の作業	69
IM and Presence サービスのデータ移行の検証	69
高可用性	70
トラブルシューティング	71
Unified Communications Manager のアップグレードに関するトラブルシューティング	71
アップグレードの失敗	71
ディスク領域不足によるアップグレードの失敗	72
アクセス コントロール グループの権限が縮小される	72
電話機の設定の消失	73
Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのアップグレード後の障害	73
Unified Communications Manager サブスクリバ ノードのアップグレード後の障害	73
IM and Presence のアップグレードに関するトラブルシューティング	74
IM and Presence データベース パブリッシャ ノードのアップグレードに失敗	74
IM and Presence サブスクリバ ノードのアップグレードに失敗	75
プレリリース 8.6(4) からのアップグレードに失敗	75
IM and Presence ユーザ電話のプレゼンスの問題	76
Presence ユーザによるアベイラビリティの取得で問題が発生する	76
Cisco SIP Proxy サービスのリアルタイム モニタリング ツールのアラート	76
リモート サーバのアップグレード ファイルが見つからない	77
アップグレード ファイルのチェックサム値が一致しない	77
データベース レプリケーションが完了しなかった	77
Cisco UP Presence Engine データベースが再起動しない	78
バージョン エラー	78

更新アップグレードに失敗した	79
アップグレードのキャンセルまたは失敗	79
ディレクトリが検出されたが、有効なオプションまたはアップグレードがない	80
共通パーティションの完全アップグレードの失敗	80



はじめに

- [目的, ix ページ](#)
- [対象読者, ix ページ](#)
- [構成, ix ページ](#)
- [関連資料, x ページ](#)
- [表記法, xi ページ](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート, xiii ページ](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要, xiii ページ](#)

目的

このマニュアルでは、ソフトウェアのアップグレードについて説明しています。

対象読者

このマニュアルは、次のソフトウェアをアップグレードする必要がある管理者を対象としています。

- Cisco Unified Communications Manager
- Cisco Unified Communications Manager の IM and Presence Service

構成

次の表に、このマニュアルの構成を示します。

章	説明
第 1 章	“使用する前に” Cisco Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence サービスに関する情報と、それらが一緒にクラスタにインストールされている場合のノード間の関係を示します。
第 2 章	“アップグレードの計画” システム要件について説明します。
第 3 章	“アップグレードの概要” アップグレードプロセスの概要、およびアップグレードのタイプに応じて実行する必要がある手順の概要を示します。
第 4 章	“アップグレード前の作業” アップグレードを開始する前に完了させる必要がある作業について説明します。
第 5 章	“アップグレード作業” Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence サービスのアップグレード手順について説明します。
第 6 章	“アップグレード後の作業” Cisco Unified Communications Manager のアップグレード後に実行する必要がある作業について説明します。
第 7 章	“トラブルシューティング” アップグレードプロセス中に発生する可能性がある問題の診断に役立つ情報を示します。
第 8 章	“参照” I/O スロットリングについて説明します。

関連資料

インストールおよびアップグレードの詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- 『Cisco Prime Collaboration Deployment Administration Guide』

このマニュアルには、Cisco Prime Collaboration Deployment アプリケーションの使用方法が記載されています。このアプリケーションは、Unified Communications アプリケーションの管理に役立つように設計されています。このアプリケーションを使用して、新しい仮想マシンへ

の既存クラスタの移行、新規インストール、既存クラスタのアップグレードなど、さまざまなタスクを実行できます。

- 『*Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

このマニュアルには、Cisco Unified Communications Manager から後のアプライアンスベースのリリースへのアップグレードに関する情報が記載されています。

- 『*Replacing a Single Server or Cluster for Cisco Unified Communications Manager*』

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_installation_guides_list.html

このマニュアルには、Cisco Unified Communications Manager サーバまたはサーバのクラスタの置換方法が記載されています。

- 『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html

このマニュアルには、Cisco Unified Communications Manager のコマンドラインインターフェイスが記載されています。これらのコマンドの一部で、アップグレードおよびインストール関連のタスクを実行します。

関連する Cisco IP テレフォニー アプリケーションおよび製品の詳細については、次の URL でお使いのリリースの『Cisco Unified Communications Manager Documentation Guide』を参照してください。

http://cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products_documentation_roadmaps_list.html

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字フォント	コマンドおよびキーワードは 太字 で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずどれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。

表記法	説明
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
^	^記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ (<>) で囲んで示しています。

(注) は、次のように表しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイントアドバイスは、次のように表しています。



ワンポイントアドバイス

「時間の節約に役立つ操作」です。記述されている操作を実行すると時間を節約できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

役立つ「ヒント」の意味です。

注意は、次のように表しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。

**警告**

This warning symbol means danger. You are in a situation that could cause bodily injury. 機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。

マニュアルの入手方法およびテクニカルサポート

マニュアルの入手方法、テクニカルサポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、次の URL で参照できます。

http://www.access.gpo.gov/bis/ear/ear_data.html



第 1 章

使用する前に

ここでは、Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence サービスに関する情報と、それらが一緒にクラスタにインストールされている場合のノード間の関係を示します。

- [Cisco Unified Communications Manager について, 1 ページ](#)
- [IM and Presence サービスについて, 1 ページ](#)
- [システム トポロジについて, 1 ページ](#)

Cisco Unified Communications Manager について

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified Communications 製品ファミリのソフトウェア ベースのコール処理コンポーネントとして機能します。さまざまな Cisco Media Convergence Server により、Cisco Unified Communications Manager のコール処理、サービス、アプリケーションのためのハイ アベイラビリティ サーバプラットフォームが提供されます。

IM and Presence サービスについて

Cisco Unified Communications Manager のサービスである IM and Presence は、ネイティブな標準ベースのデュアルプロトコル企業インスタント メッセージング (IM) 、および Cisco Unified Communications の一部としてのネットワークベースの可用性を提供します。このセキュアで、スケーラブルで、管理の容易なサービスでは、ユーザに企業内外への機能豊富な通信機能が提供されます。

システム トポロジについて

ここでは、システム トポロジの概要と、トポロジにおけるノードタイプ間の関係について説明します。

クラスタ

クラスタは、複数のサーバ間でコール処理の分散およびデータベースレプリケーションを行うメカニズムを備えています。また、リソースと機能の透過的な共有を実現し、システムのスケラビリティを向上させます。

クラスタは、互換性があるソフトウェアバージョンを実行している一連の Cisco Unified Communications Manager (Cisco Unified CM) ノードと、IM and Presence ノードから構成されます。

パブリッシャ ノードとサブスクリバ ノード

クラスタ内では、インストールするノードのタイプごとにデータベースパブリッシャがあります。

Unified Communications Manager のインストール時、インストールウィザードは、インストールするノードがクラスタ内の最初のノードかどうかを指定することを求めます。最初にインストールされた Unified Communications Manager ノードがパブリッシャノードになります。このノードによって、クラスタ内の他の Unified Communications Manager ノードに音声およびビデオデータベースがパブリッシュされるからです。そのクラスタ内の後続のノードはすべて、サブスクリバノードと呼ばれます。サブスクリバノードは、それぞれパブリッシャノードと関連付けられている必要があります。サブスクリバノードにソフトウェアをインストールするには、その前にパブリッシャノードのシステムトポロジ内ですべてのサブスクリバノードを設定する必要があります。

IM and Presence ノードをインストールする場合は、最初にインストールするノードが IM and Presence データベースのサーバとして機能します。このノードはクラスタ内のすべての IM and Presence ノード向けにデータベースをパブリッシュするので、IM and Presence データベースパブリッシャと呼ばれます。ただし、このノードと他のすべての IM and Presence ノードは、Unified Communications Manager パブリッシャノードのサブスクリバとしてインストールする必要があります。他のサブスクリバノードと同様に、ソフトウェアをインストールする前に、システムトポロジにこれらを追加しなければなりません。



第 2 章

アップグレードの計画

この章では次の項目について説明します。

- [要件および制約事項, 3 ページ](#)
- [サポートされているアップグレードパス, 9 ページ](#)
- [ライセンス, 12 ページ](#)
- [Export Unrestricted バージョン, 13 ページ](#)

要件および制約事項

ここでは、Cisco Unified Communications Manager または IM and Presence サービスをインストールまたはアップグレードするときに、システムが満たす必要のある要件および適用される制限事項について説明します。



注意

Cisco Unified CM Administration インターフェイスの [アプリケーション サーバ (Application Server)] または [サーバの設定 (Server Configuration)] ページで、IM and Presence サービスのサーバ エントリを変更しないでください。IM and Presence サービスのアップグレードプロセスでは、アップグレードプロセスの最終段階 (バージョンの切り替え) で、Cisco Unified Communications Manager クラスタのこれらのエントリが自動的に更新されます。

リリース 8.x または 9.x からリリース 10.x 以降にアップグレードする場合に、アップグレードプロセス中にこれらのエントリを手動変更すると、IM and Presence サービスと Cisco Unified Communications Manager 間でのデータの移行に失敗します。このような障害が発生した場合は、Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスの両方のクラスタに対してすべてのアップグレードプロセスを再実行する必要があります。

システムの制限

ここでは、Cisco Unified Communications Manager または IM and Presence サービスをインストールまたはアップグレードする際の制限について説明します。

サブネットの制限

大量のデバイスを含む大規模な Class A または Class B サブネットに Cisco Unified Communications Manager をインストールしないでください。

クラスタ サイズ

クラスタ内の呼処理サブスクリバ ノードの合計数は、8 つ（4 つのサブスクリバ ノードと 4 つのスタンバイ ノード）を超えることはできません。パブリッシャ ノード、TFTP サーバ、メディア サーバなどのクラスタ内のサーバ ノードの合計数は 21 を超えることはできません。



(注) クラスタ内の IM and Presence ノードの最大数は 6 です。

クラスタ間ピアのサポート

この IM and Presence のリリースは、Cisco Unified Presence Release 8.6 および IM and Presence Release 9.x を実行するクラスタに対するクラスタ間ピアをサポートします。Release 8.0(x) または Release 8.5(x) を実行するクラスタ間ピアからクラスタへのアップグレードはサポートされていません。

パラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスを統合すると、クラスタ内のノード間でエンタープライズパラメータとサービスパラメータが共有されます。そのため、エンタープライズパラメータとクラスタ全体のパラメータに対して、両方のタイプのノードで同じ設定が使用されます。リリース 10.0(1)へのアップグレード時には、すべてのパラメータ設定が保持されるわけではないので注意してください。Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスの両方に共通するエンタープライズパラメータとクラスタ全体のサービスパラメータは、1 つの例外を除き、Cisco Unified Communications Manager で指定された値だけを保持します。アップグレード時に保持されるエンタープライズパラメータは、[ユーザ割り当てモード (User Assignment Mode)]パラメータだけです。IM and Presence にのみ適用されるサービスパラメータは、アップグレード後も保持されます。

アップグレードを開始する前に、パラメータ設定を書き留め、結合されたクラスタに最適な設定を判断することをお勧めします。これによって、アップグレードの完了後にこれらの設定を簡単に行うことができます。

ネットワークの要件

ここでは、Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスを展開する前に満たす必要があるネットワーク要件を示します。

IP アドレス要件

静的 IP アドレッシングを使用するようにサーバを設定し、サーバが固定 IP アドレスを取得できるようにします。また、静的 IP アドレスを使用することで、Cisco Unified IP Phone をネットワークに接続したときにアプリケーションに登録できるようにもなります。

DNS の要件

次の DNS 要件に注意してください。

- 混合モードの DNS 導入はサポートされません。シスコでは混合モードの導入をサポートしていません。DNS を Cisco Unified Communications Manager (Unified Communications Manager) と IM and Presence の両方で使用するか、両方で使用しない必要があります。
- 展開で DNS を使用している場合：Unified Communications Manager と IM and Presence で同じ DNS サーバを使用する必要があります。IM and Presence と Unified Communications Manager とで異なる DNS サーバを使用すると、システムの動作に異常が発生する場合があります。
- 展開で DNS を使用しない場合：Presence and IM UC サービスのサービス プロファイルで、[ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドを変更する必要があります。DNS がサポートされない場合は、[ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドを IM and Presence パブリッシャ ノードの IP アドレスに変更する必要があります。サービスの設定の詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- マルチノードの考慮事項：IM and Presence でマルチノード機能を使用する場合は、DNS 設定オプションについて、『*Deployment Guide for IM and Presence on Cisco Unified Communications Manager*』でマルチノード展開に関する項を参照してください。

SFTP サーバのサポート

任意の SFTP サーバ製品を使用できますが、Cisco Technology Developer Partner Program (CTDP) を介してシスコが認定する SFTP 製品を使用することをシスコでは推奨します。CTDP パートナー (GlobalSCAPE など) は、特定のバージョンの Cisco Unified Communications Manager で自社製品を認定しています。ご使用のバージョンの Cisco Unified Communications Manager と自社製品の互換性を保証しているベンダーについては、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/pcgi-bin/ctdp/Search.pl>

サポートされている Cisco Unified Communications Manager バージョンで GlobalSCAPE を使用方法の詳細については、次の URL を参照してください。

<http://www.globalscape.com/gsftps/cisco.aspx>

シスコでは社内テストに次のサーバを使用しています。いずれかのサーバを使用できますが、サポートについては各ベンダーにお問い合わせください。

- Open SSH (<http://sshwindows.sourceforge.net/> を参照)
- Cygwin (<http://www.cygwin.com/> を参照)
- Titan (<http://www.titanftp.com/> を参照)

シスコでは、SFTP 製品の無料 FTPD の使用はサポートしません。この SFTP 製品では、ファイルサイズが 1GB に制限されているためです。

CTDP プロセスでまだ認定されていないサードパーティ製品で問題が発生した場合、サポートについてはそのサードパーティベンダーにお問い合わせください。

プラットフォーム要件

このリリースでは、サーバハードウェアで Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスを直接インストールまたは実行することはできません。これらのアプリケーションは仮想マシンで実行する必要があります。

仮想マシンでソフトウェアをインストールまたはアップグレードする前に、次の操作を実行する必要があります。

- プラットフォームを設定する。
- ESXi 仮想化ソフトウェアをインストールして設定する。
- リリースに適した OVA テンプレートを展開する。

ここでは、仮想マシンに Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスを展開する前に満たす必要があるプラットフォーム要件について説明します。

対応プラットフォーム

シスコでは、Cisco Unified Computing System サーバまたはシスコ認定サードパーティのサーバ構成で、Unified Communications Manager と IM and Presence サービスの仮想化展開をサポートしています。

Cisco Unified Computing System サーバまたはシスコ認定サードパーティのサーバ構成のいずれを使用する場合でも、サーバはリリースの構成要件を満たしていなければなりません。次のオプションを使用できます。

- Tested Reference Configuration (TRC)
- 仕様ベースの設定

CPU、メモリ、ストレージの仕様など、プラットフォームの設定仕様の詳細については、『[UC Virtualization Supported Hardware](#)』を参照してください。

サポートされているプラットフォームについては、次のマニュアルでも参照できます。

- 『*Cisco Unified Communications Manager on Virtualized Servers*』
- ご使用の製品リリースのリリース ノート
- 『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』

関連トピック

[仮想マシン構成仕様の変更](#), (40 ページ)

ESXi および VMware ツール

VMware ツールに加えて、リリースの要件を満たす vSphere ESXi ハイパーバイザのバージョンをインストールする必要があります。VMware Tools は、仮想化して実行される場合に UC アプリケーションにインストールされる、仮想ハードウェア専用のドライバです。VMware ツールのバージョンが、使用中の ESXi のバージョンと同期していることが非常に重要です。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager on Virtualized Servers*』を参照してください。

サーバが VMware EX/ESXi を実行しており、マザーボードに ICH10 オンボード SATA コントローラが搭載されている場合は、BIOS で SATA コントローラを無効にする必要があります。ICH10 オンボード SATA コントローラは、EX/ESXi ではサポートされていません。

関連トピック

[vSphere ESXi のアップグレード](#), (41 ページ)

[VMware ツールの更新](#), (57 ページ)

OVA テンプレート

ハードウェアプラットフォームで ESXi を実行すると、仮想マシンをホストする準備が整います。最初の手順は、ホストに仮想マシンを作成することです。仮想マシンを作成して Unified Communications Manager アプリケーションを実行するには、シスコによって作成された OVA テンプレートを使用する必要があります。これらの OVA テンプレートには、アラインメント済みディスクパーティションとその他の必要な設定が含まれています。使用するリリースに応じた OVA ファイルのダウンロードについては、『[Virtualization for Cisco Unified Communications Manager](#)』を参照してください。

電源モジュール

バックアップ電源を供給してシステムを保護できるように、各ノードを必ず無停電電源 (UPS) に接続してください。UPS に接続していないと、物理メディアが損傷して設置のやり直しが必要になる場合があります。

ノードで UPS シグナリングを自動監視し、停電時にグレースフルシャットダウンを自動的に開始する場合、Cisco Unified Communications Manager の対応は、仮想化ソフトウェアまたは物理サー

バのサービスプロセッサの機能によって異なります。サポートについては、製品のマニュアル（存在する場合）を参照してください。

ソフトウェア要件

ここでは、展開が満たす必要があるソフトウェア要件に関する情報を提供します。

ブラウザ要件

Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスはどちらも、システムの設定や管理に使用できるインターフェイスを備えています。次の表に示すブラウザおよびオペレーティングシステムを使用すると、インターフェイスにアクセスできます。シスコは、その他のブラウザに対するサポートおよび動作検証を行っていません。

表 1: サポートされるブラウザおよびオペレーティング システム

Cisco Unified Communications Manager にアクセスできるブラウザ	使用するオペレーティング システム
Microsoft Internet Explorer 8	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Windows XP SP3 • Microsoft Windows Vista SP2（または最新のサービス パック） • Microsoft Windows 7（32 ビット）（最新のサービス パック）
Mozilla Firefox 3.x または 4.x（利用可能な場合）	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Windows XP SP3 • Microsoft Windows Vista SP2（または最新のサービス パック） • Microsoft Windows 7（32 ビット）（最新のサービス パック） • Apple MAC OS X（最新のサービス パック）
Safari 4.x または 5.x（利用可能な場合）	Apple MAC OS X（または最新の OS リリース）

アップグレードの時間の要件

ソフトウェアのアップグレードに必要な時間は一定ではなく、いくつかの要因によって異なります。大規模の導入の場合は、アップグレードソフトウェアのインストールに数時間かかることもあります。

アップグレード所要時間に対するスロットリングの影響

アップグレード中のシステムの安定性を維持するために、システムはアップグレードプロセスを抑制します。このため、アップグレード完了までの所要時間が増えることがあります。

アップグレードプロセスに予想以上の時間がかかる場合は、スロットリングを無効にすることができます。スロットリングを無効にすると、アップグレードの実行時間が短縮されますが、システムのパフォーマンスが低下することがあります。

スロットリングを無効にするには、アップグレードを開始する前に、CLI で次のコマンドを使用します。

```
utils iothrottle disable
```

アップグレードの開始後にスロットリングを再起動する場合は、アップグレードをキャンセルし、スロットリングを再起動してからアップグレードを再開する必要があります。

アップグレード後のシステム可用性

標準アップグレードの場合、データベースのサイズによっては、アップグレードしたソフトウェアをアクティブにすると、パブリッシュ ノードのシステムが再起動し、最長 30 分間機能しなくなります。サブスクリバ ノードの停止時間は、データベース レプリケーションが完了するまでの時間に依って異なります。

以前のソフトウェア バージョンに戻す必要がある場合は、システムの再起動が必要になるため、同様の停止時間が発生します。

サポートされているアップグレードパス

ここでは、Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスのサポートされているアップグレードパスについて説明します。

バージョン要件

クラスタ内のすべてのサーバは、同じリリースの Cisco Unified Communications Manager を実行する必要があります。ただし、クラスタソフトウェアのアップグレード中に限り、一時的に不一致が許可されます。

IM and Presence ノードをインストールする場合は、最初にアップグレードする IM and Presence ノード (IM and Presence データベース パブリッシャ ノード) のソフトウェアバージョンが、Unified Communications Manager パブリッシャ ノードにインストールされているソフトウェアバージョンの先頭の 2 つの番号と一致している必要があります。たとえば、IM and Presence サービスのソフトウェアバージョン 10.0.1.10000-1 は、Cisco Unified Communications Manager のソフトウェアバージョン 10.0.1.30000-2 と互換性があります。

最初の IM and Presence ノードをインストールした後にインストールする IM and Presence サブスタライバ ノードのソフトウェアバージョンは、最初の IM and Presence ノードの 5 つのバージョン番号と一致している必要があります。

Cisco Unified Communications Manager のアップグレードパス

次の表に、Cisco Unified Communications Manager に対してサポートされるアップグレードパスの範囲を示します。サポートされるアップグレードパスの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Software Compatibility Matrix*』を参照してください。

表 2: Cisco のアップグレードパス

送信元	目的	アップグレードタイプ
8.5(x) 以前	11.0(1)	更新アップグレード、COPファイルが必要
8.6(x) ~ 9.x	11.0(1)	更新アップグレード
10.x	11.0(1)	標準アップグレード

IM and Presence サービスのアップグレードパス

次の表に、IM and Presence サービスに対してサポートされるアップグレードパスの範囲を示します。サポートされるアップグレードパスの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Software Compatibility Matrix*』を参照してください。

表 3: IM and Presence サービスのアップグレードパス

元の Cisco Unified Presence Release	アップグレード先の IM and Presence Release	アップグレードタイプ
8.5(4)	10.0(1)	更新アップグレード、COPファイルが必要
8.6(3) ~ 9.x	10.0(1)	更新アップグレード
10.0.1.x	10.0.1.y	標準アップグレード

表 4: IM and Presence サービスのアップグレードパス

送信元	目的	アップグレードタイプ
8.5(4)	11.0(1)	更新アップグレード、COPファイルが必要
8.6(3) ~ 9.x	11.0(1)	更新アップグレード
10.x	11.0(1)	標準アップグレード

<https://tools.cisco.com/bugsearch/bug/CSCuo04591> IM and Presence Service 10.0(1) Export Unrestricted からより新しい IM and Presence Service Export Unrestricted リリースに（サービスのアップデートを含めて）アップグレードする場合は、アップグレードを開始する前に、COP ファイル（`ciscocm.cup.unrst_upgrade_10_0_1_v1.2.cop.sgn`）をインストールする必要があります。このファイルは Cisco.com からダウンロードできます。

Cisco Unified Presence 8.5(4) からアップグレードする場合は、アップグレードプロセスを開始する前に、すべてのノードに COP ファイルをインストールする必要があります。COP は、Cisco.com からダウンロードできます。COP ファイルの名前は、`cisco.com.cup.refresh_upgrade_v<latest_version>.cop` です。この COP ファイルが提供する機能によって、アップグレードパスのサポートが可能になり、さまざまなユーザーエクスペリエンスが向上します。



注意

必要なリリースのすべてのノードに COP ファイル（`cisco.com.cup.refresh_upgrade_v<latest_version>.cop`）をインストールしないと、アップグレードに失敗します。

Cisco Unified Presence Release 8.5(4) からのアップグレード

Cisco Unified Presence Release 8.0(x) または 8.5 から最新バージョンにアップグレードする場合は、次の点に注意してください。

- Cisco Unified Presence Release 8.0(x) または 8.5 のクラスタへのクラスタ間ピアが存在する場合は、それらのクラスタをすべてリリース 8.6 または 9.x 以降にアップグレードするまで、クラスタ間アベイラビリティはありません。アップグレードが完了すると、以前に設定されたピアが動作を開始し、クラスタ間アベイラビリティが回復します。
- ハイアベイラビリティ（HA）が有効になっている Cisco Unified Presence Release 8.5 クラスタをリリース 9.x 以降にアップグレードする場合は、アップグレードを開始する前に各プレゼンス冗長グループの HA を無効にすることをお勧めします。バージョンの切り替えが完了し、データベースレプリケーションが行われ、すべてのサービスが再起動して動作を始めると、各クラスタの HA を再度イネーブルにできます。

- ソフトウェアのアップグレード中は、Cisco Replication Watcher サービスによりパブリッシャーノードでの機能サービスの起動が最大で 20 分遅らされます。サブスクリバノードでの機能サービスの起動は、レプリケーションが確立するまで無制限に遅延します。



(注) IM and Presence Release 10.0(1) では、Cisco Replication Watcher サービスの名前が「Cisco IM and Presence Data Monitor」サービスに変更されました。

ライセンスング

ここでは、Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスのライセンス要件について説明します。

Cisco Unified Communications Manager のライセンス要件

Cisco Unified Communications Manager と、そのアプリケーションやエンドポイントへのライセンス割り当てやモニタを行うには、Cisco Prime License Manager を使用します。ライセンスの生成およびインストールの詳細については、『*Cisco Prime License Manager User Guide*』を参照してください。



重要

システムをリリース 9.0 以降にアップグレードすると、リリース 9.0 よりも前のバージョンの未使用 PAK やライセンスをインストールできなくなります。PAK をアンインストールした場合は、アップグレードの前に、すべてのライセンスをインストールします。

IM and Presence ライセンスの要件

IM and Presence Service には、サーバのライセンスまたはソフトウェアバージョンのライセンスは必要ありません。ただし、ユーザを割り当て、その各ユーザごとに IM and Presence サービスを有効にする必要があります。



(注) Jabber for Everyone Offer を使用している場合、IM and Presence 機能を有効にするためのエンドユーザライセンスは不要です。詳細については、『*Jabber for Everyone Quick Start Guide*』を参照してください。

各ユーザに関連付けられているクライアントの数に関係なく、ユーザ単位で IM and Presence を割り当てることができます。IM and Presence をユーザに割り当てると、そのユーザは IM の送受信が可能になり、アベイラビリティのアップデートも送受信できるようになります。IM and Presence が有効になっていないユーザは、IM and Presence サーバにログインして他のユーザのアベイラビ

リティを確認したり、IMを送受信したりできません。また、他のユーザはそのアベイラビリティステータスを確認できません。

次のオプションのいずれかを使用して、IM and Presence に対してユーザを有効にできます。

- Cisco Unified Communications Manager の [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウ。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』を参照してください。
- 一括管理ツール (BAT)
- Unified Communications Manager の [ユーザ/電話のクイック追加 (Quick User/Phone Add)] ウィンドウから参照できる機能グループ テンプレートに IM and Presence を割り当てます。

詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

IM and Presence 機能は、User Connect Licensing (UCL) および Cisco Unified Workspace Licensing (CUWL) の両方に含まれます。IM and Presence 機能は、Cisco Unified Communications Manager IP Telephony ユーザではないユーザに対しても、Jabber for Everyone Offer 経由で入手することができます。詳細については、『*Jabber for Everyone Quick Start Guide*』を参照してください。

Export Unrestricted バージョン

Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスのこのリリースでは、Export Unrestricted (XU) バージョンをサポートしています。



(注) 無制限 (Unrestricted) バージョンのソフトウェアは、さまざまなセキュリティ機能を必要としない特定の顧客のみを対象としています。無制限バージョンは一般的な展開用ではありません。

Export Unrestricted バージョンは、次の点で制限 (restricted) バージョンと異なります。

- ユーザ ペイロード (情報交換) の暗号化はサポートされません。
- Microsoft OCS/Lync または AOL との外部 SIP ドメイン間フェデレーションはサポートされません。
- 無制限バージョンのリリースをインストールすると、制限バージョンにアップグレードできなくなります。無制限バージョンを含むシステムでの制限バージョンの更新インストールもサポートされません。
- 単一クラスタ内のすべてのノードを同じモードにする必要があります。たとえば、同じクラスタ内の Cisco Unified Communications Manager ノードと IM and Presence ノードは、すべてが無制限モードまたは制限モードでなければなりません。
- IP フォンのセキュリティ設定が変更され、シグナリングおよびメディアの暗号化 (VPNPhone 機能で提供される暗号化を含む) が無効になります。

必要な UCSInstall ファイルをダウンロードすることにより、無制限バージョンの更新インストールを実行できます。



- (注) 無制限バージョンのリリースをインストールすると、制限バージョンにアップグレードできなくなるので注意してください。無制限バージョンを含むシステムでは、制限バージョンの更新インストールを実行できません。

すべてのグラフィカルユーザインターフェイス (GUI) とコマンドラインインターフェイス (CLI) で、管理者は製品バージョン (restricted または export unrestricted) を表示できます。

次の表は、IM and Presence の Export Unrestricted バージョンでは使用できない GUI 項目を示しています。

Export Unrestricted GUI 項目の場所	説明
Cisco Unified CM IM and Presence の管理	
[システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [設定 (Settings)]	[XMPP クライアントと IM/P サービス間のセキュアモードの有効化 (Enable XMPP Client To IM/P Service Secure Mode)] 設定はオンにできません。
	[XMPP ルータツールータセキュアモードの有効化 (Enable XMPP Router-to-Router Secure Mode)] 設定はオンにできません。
	[Web クライアントと IM/P サービス間のセキュアモードの有効化 (Enable Web Client to IM/P Service Secure Mode)] 設定はオンにできません。
	[SIP クラスタ間プロキシツープロキシ転送プロトコル (SIP Intra-cluster Proxy-to-Proxy Transport Protocol)] を TLS に設定するオプションは削除されました。

[システム (System)] > [サービス パラメータ - Cisco SIP Proxy サービス (Service Parameters - Cisco SIP Proxy service)]	<p>Transport Preferred Order パラメータの TLS オプションはすべて削除されました。</p> <p>TLS オプションは SIP Route Header Transport Type パラメータから削除されました。</p>
[プレゼンス (Presence)] > [ドメイン間フェデレーション (Inter-Domain Federation)] > [SIP フェデレーション (SIPFederation)]	OCS/Lync とのドメイン間フェデレーションを設定するとポップアップが表示され、エンタープライズ内の別の OCS/Lync とのみ直接フェデレーションを行うことができるとの警告が出されます。エンタープライズ外の OCS/Lync とのドメイン間フェデレーションは、無制限モードではサポートされません。
[プレゼンス (Presence)] > [ドメイン間フェデレーション (Inter Domain Federation)] > [XMPP フェデレーション (XMPP Federation)] > [設定 (Settings)]	セキュリティ モードは設定できません。「NO TLS」に設定されます。
[プレゼンス (Presence)] > [ルーティング (Routing)] > [設定 (Settings)]	優先プロキシリスナーとして TLS または HTTPS リスナーを設定できません。



第 3 章

アップグレードの概要

ここでは次の項目について説明します。

- [アップグレードの種類, 17 ページ](#)
- [アップグレードプロセス, 20 ページ](#)
- [アップグレードタスクのリスト, 23 ページ](#)

アップグレードの種類

アップグレードには次の 2 種類があります。

- 標準アップグレード
- 更新アップグレード

標準アップグレードと更新アップグレードのいずれを実行する必要があるかは、サーバによって自動的に決定されます。

標準アップグレード

標準アップグレードは、オペレーティング システムのアップグレードを必要としないアップグレードです。システムを稼働したまま、サーバにアップグレードソフトウェアをインストールできます。

標準アップグレードの場合は、非アクティブなバージョンとしてアップグレードソフトウェアをインストールします。ソフトウェアのインストール中もシステムは通常どおり動作します。アップグレードが完了すると、システムをアップグレードしたソフトウェアで自動的にリブートするか、後から新しいソフトウェアに手動で切り替えることができます。新しいソフトウェアでリブートすると、古いソフトウェアバージョンはシステム内に残されます。そのため、新しいソフトウェアに予期しない問題が起こっても、古いバージョンに戻せます。アップグレード中に、設定情報はアップグレードされたバージョンに自動的に移行されます。



(注) データベースへの変更は、アクティブ ソフトウェアに対してのみ実行できます。非アクティブ ソフトウェアのデータベースはアップデートされません。アップグレード後にデータベースに変更を加えた場合は、新しいソフトウェアに切り替えてから同じ変更を繰り返す必要があります。

更新アップグレード

更新アップグレードは新旧のソフトウェア リリースが非互換の場合に必要になります。たとえば、更新アップグレードは、オペレーティングシステムのマジャーバージョンがアップグレード前とアップグレード後で変化する場合に必要になります。更新アップグレードでは、基礎となるオペレーティングシステムをアップグレードするために、インストール中に複数回リブートする必要があります。そのため、ソフトウェアのインストール中にサービスが一時停止します。この停止時間は、設定やデータベースのサイズによって異なります。通常更新アップグレードでは、ノードごとに1~4時間かかります。



(注) アップグレード中はシステムを使用できなくなるため、メンテナンス時間帯にすべての更新アップグレードを実行してください。

更新アップグレードでは、アップグレードウィザードを使用して、アップグレードの完了時に新しいアップグレードソフトウェアを自動実行するかどうかを選択できます。新しいソフトウェアを実行しないよう選択した場合は、アップグレード完了時に古いソフトウェアバージョンでシステムがリブートされ、後から新しいソフトウェアに手動で切り替えることができます。

何らかの理由によって以前のソフトウェアバージョンに戻すには、ソフトウェアの旧バージョンに切り替えます。バージョンを切り替えるには、リブートが必要です。ソフトウェアのアップグレード後に行った設定変更は失われるので注意してください。

COP ファイル

更新アップグレードを行う場合は、下記のリリースからアップグレードする前にCOPファイルをインストールする必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager 8.5(x) 以前から Cisco Unified Communications Manager 10.0(x) へのアップグレード
- Cisco Unified Presence 8.5(4) から IM and Presence 10.0(x) へのアップグレード

Cisco.com から次の COP ファイルをダウンロードできます。

COP ファイル	目的
ciscocm.refresh_upgrade_v<latest_version>.cop.sgn	必須作業です。すべての Unified Communications Manager ノードにこのファイルをインストールして、オペレーティングシステムを更新し、新しいリリースがサポートされるようにします。
ciscocm.cup.refresh_upgrade_v<latest_version>.cop	必須作業です。すべての IM and Presence Service ノードにこのファイルをインストールして、オペレーティングシステムを更新し、新しいリリースがサポートされるようにします。
ciscocm.vmware-disk-size-reallocation-<latest_version>.cop.sgn	これはオプションです。この COP ファイルは vDisk のサイズを拡大します。更新アップグレードの容量要件を満たすために vDisk 領域を増やす必要がある場合は、Unified Communications Manager ノードまたは IM and Presence サービス ノードにこの COP ファイルをインストールします。このオプションにはリブートが必要です。
ciscocm.free_common_space_<latest_version>.cop.sgn	これはオプションです。この COP ファイルを使用すると、システムを再構築することなく、共通パーティションの非アクティブ側を削除して使用可能なディスク領域を増やすことができます。必要に応じて、Unified Communications Manager ノードまたは IM and Presence サービス ノードにこの COP ファイルをインストールし、アップグレードを実行します。この COP ファイルは、上記の COP ファイルの代わりとして使用するか、または組み合わせて使用できます。このオプションには再起動は不要です。 (注) このファイルのインストール後は、非アクティブなバージョンに戻せません。

Cisco.com で COP ファイルを検索するには、[サポート (Support)]>[ダウンロード (Downloads)]> [Cisco Unified Communications Manager Version 10.0]> [Unified Communications Manager/CallManager/Cisco Unity Connection ユーティリティ (Unified Communications Manager/CallManager/Cisco Unity Connection Utilities)]に移動します。

**注意**

必要なリリースのすべてのノードに COP ファイルをインストールしないと、アップグレードに失敗します。

COP ファイルのインストール

COP ファイルのインストールには、以下のガイドラインが適用されます。特定の COP ファイルのマニュアルがこれらの一般的ガイドラインと矛盾する場合は、COP ファイルのマニュアルに従ってください。

- 適切な COP ファイルをクラスタ内のすべてのノードにインストールします。クラスタ内の各ノードに新しいソフトウェアをインストールして、データベースをセットアップする前に、この作業を実行します。
- COP ファイルをインストールしたら、サーバを再起動します。
- COP ファイルのインストール時に行った設定の変更をデータベースに上書きするため、Cisco Unified Communications Manager を再起動します。
- COP ファイルのインストール時に行った設定の変更をデータベースに上書きするため、IM and Presence サービスを再起動します。

アップグレードプロセス

コマンドラインインターフェイスまたはグラフィカルユーザインターフェイスを使用して、アップグレードを開始できます。コマンドラインインターフェイスとグラフィカルユーザインターフェイスのアクセスが復元されるまでの間は、コンソールを使用してアップグレードの進行状況をモニタできます。これらのインターフェイスの復元後は、コマンドラインインターフェイスまたはグラフィカルユーザインターフェイスを使用してアップグレードの進行状況を引き続きモニタできます。

ノードをアップグレードすると、新しいソフトウェアが非アクティブなバージョンとしてインストールされます。新しいソフトウェアをアクティブにするには、新しいソフトウェアバージョンにノードを切り替える必要があります。新しいソフトウェアバージョンに切り替えるには、次の2つの方法があります。

- 自動切り替え：アップグレードプロセスの一部として、バージョンが自動的に切り替えられます
- 手動切り替え：アップグレードプロセスの完了後に、OS の管理インターフェイスを使用してバージョンを切り替えます

どちらの方法を選択するかは、実行するアップグレードのタイプに応じて異なります。アップグレードプロセス中、再起動してアップグレード済みパーティションにソフトウェアバージョンを自動的に切り替えるか、後で手動でバージョンを切り替えるかについて、ウィザードから選択を求められます。次の表は、アップグレードの各タイプに使用する切り替え方式を示しています。

アップグレードタイプ	切り替えタイプ	要求に応じて選択	結果
標準アップグレード	自動 (Automatic)	アップグレードされたパーティションをリブート (Reboot to Upgraded Partition)	このオプションを選択すると、システムがリブートして新しいソフトウェアバージョンになります。
	手動 (Manual)	アップグレード後にリブートしない (Do not reboot after upgrade)	このオプションを選択した場合、アップグレードが完了すると、古いソフトウェアバージョンが引き続き実行されます。後で、新しいソフトウェアに手動で切り替えることができます。

アップグレードタイプ	切り替えタイプ	要求に応じて選択	結果
更新アップグレード	手動 (Manual)	アップグレード後に新バージョンに切り替えない (Do not switch to new version after upgrade)	このオプションは、段階的に更新アップグレードを実行する場合にのみ使用します。このオプションを選択した場合は、アップグレードが完了すると、システムがリブートして古いソフトウェアバージョンが実行されます。後で新しいソフトウェアに手動で切り替えます。 このアップグレード方式を使用する場合は、サブスクライバノードをアップグレードする前に、パブリッシャノードを新しいソフトウェアバージョンに切り替える必要があります。
	自動 (Automatic)	アップグレード後に新バージョンに切り替える (Switch to new version after upgrade)	アップグレード後、ただちに新しいソフトウェアバージョンを使用する場合は、このオプションを選択します。 このアップグレード方式を使用する場合は、サブスクライバノードをアップグレードする前に、パブリッシャノードを新しいソフトウェアバージョンに切り替える必要があります。

バージョンを切り替えると、設定情報は、アクティブパーティションのアップグレード済みバージョンに自動的に移行されます。

何らかの理由でアップグレードを元の状態に戻す場合は、ソフトウェアの以前のバージョンがある非アクティブパーティションからシステムを再起動できます。ただし、ソフトウェアのアップグレード後に行った設定の変更はすべて失われます。

Cisco Unified Communications Manager のインストール後すぐに、または別の製品バージョンへのアップグレード後のスイッチオーバーで、電話機ユーザによる設定変更が無効になることがあります。電話機ユーザが行う設定には、コール転送やメッセージ待機インジケータライトの設定などがあります。この現象は、Cisco Unified Communications Manager によるデータベースの同期がインストール後またはアップグレード後に行われるため発生します。つまり、電話機ユーザによる設定変更が上書きされる可能性があります。

アップグレードファイルへのアクセス

アップグレードファイルへのアクセス方法は、ネットワーク環境によって異なります。次のオプションを使用できます。

- リモート FTP または SFTP サーバのアップグレードファイルにアクセスする。
- VMware ESXi サーバホストの物理 DVD ドライブのアップグレードファイルにアクセスする。
- ローカル ESXi ホストのデータストア ISO ファイルからアップグレードする。このオプションでは、仮想マシンの CD/DVD ドライブをファイルにマッピングする必要があります。
- ESXi ホストに接続されたストレージエリア ネットワーク (SAN) のデータストア ISO ファイルからアップグレードする。このオプションでは、仮想マシンの CD/DVD ドライブをファイルにマッピングする必要があります。

アップグレードタスクのリスト

ここでは、サポートされる各アップグレードシナリオにおいて実行する必要がある一連のタスクの概略を示します。

- Unified Communications Manager ノードと IM and Presence ノードの両方でソフトウェアをアップグレードする。
- Unified Communications Manager ノードでのみソフトウェアをアップグレードする。
- IM and Presence ノードでのみソフトウェアをアップグレードする。

これらのタスク リストに示されている順序どおりにタスクを実行してください。タスク リストで概略されているタスクの実行方法については、各タスク リストの末尾に記載されている「関連項目」の項を参照してください。

Unified Communications Manager ノードと IM and Presence ノードの標準アップグレード

ネットワークの Unified Communications Manager と IM and Presence の両方のノードを標準アップグレードする場合は、この項で概略を示すタスクを実行します。

手順

-
- ステップ 1** サイトに適用されるアップグレード前の作業をすべて実行します。
- ステップ 2** すべての設定タスクを終了します。アップグレード中は、設定作業を実行しないでください。
- 注意** Cisco Unified CM Administration インターフェイスの [アプリケーションサーバ (Application Server)] または [サーバの設定 (Server Configuration)] ページで、IM and Presence サービスのサーバエントリを変更しないでください。IM and Presence サービスのアップグレードプロセスでは、アップグレードプロセスの最終段階 (バージョンの切り替え) で、Cisco Unified Communications Manager クラスタのこれらのエントリが自動的に更新されます。
- リリース 8.x または 9.x からリリース 10.x 以降にアップグレードする場合に、アップグレードプロセス中にこれらのエントリを手動変更すると、IM and Presence サービスと Cisco Unified Communications Manager 間でのデータの移行に失敗します。このような障害が発生した場合は、Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスの両方のクラスタに対してすべてのアップグレードプロセスを再実行する必要があります。
- ステップ 3** Unified Communications Manager パブリッシャ ノードをアップグレードします。Unified Communications Manager パブリッシャ ノードは、クラスタの最初のノードです。
- ステップ 4** Unified Communications Manager サブスクライバ ノードをアップグレードします。
- ステップ 5** アップグレードされたパーティションに最初のノードを切り替えます。
- ステップ 6** アップグレードされたパーティションにサブスクライバ ノードを切り替えます。
- (注) サイト要件に応じて、サブスクライバ ノードをすべて同時にまたは 1 つずつ、アップグレードされたパーティションに切り替えることができます。
- ステップ 7** 最初のノード (Unified Communications Manager パブリッシャ ノード) とサブスクライバ ノード間でデータベース レプリケーションが機能していることを確認します。データベース レプリケーションのステータスは、次のいずれかの方法で確認できます。
- Cisco Unified Reporting で、Unified Communications Manager のデータベース ステータス レポートにアクセスします。続行する前に、レポートをチェックして、データベース レプリケーションのステータスが良好で、エラーがないことを確認します。Cisco Unified Reporting の詳細については、『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。
 - Cisco リアルタイム監視ツールで、[CallManager] タブの Database Summary サービスにアクセスして、データベースの複製ステータスをモニタします。下記は、データベース レプリケーションのステータスの進行状況を示しています。
 - 0 : 初期化中。レプリケーションのセットアップが進行中です。
 - 1 : このノードでレプリケーションセットアップ スクリプトが実行中。移行状態。

- 2 : セットアップが完了。レプリケーションがセットアップされ、状態は良好です。
- 3 : 非同期。レプリケーションはセットアップされましたが、一部のデータが同期していません。
- 4 : 失敗。レプリケーションのセットアップは成功しませんでした。

先に進む前に、データベース レプリケーションがセットアップされ、状態が良好であることを確認します。リアルタイム監視ツールの詳細については、『*Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide*』を参照してください。

- ステップ 8** Unified Communications Manager ノードのアップグレード後の作業を実行します。
- ステップ 9** IM and Presence データベース パブリッシャ ノードをアップグレードします。IM and Presence データベース パブリッシャ ノードは IM and Presence クラスターの最初のノードです。
- ステップ 10** IM and Presence サブスクライバ ノードをアップグレードします。
- ステップ 11** IM and Presence データベース パブリッシャ ノード (最初の IM and Presence ノード) のソフトウェアを新しいソフトウェアリリースに切り替えます。最初のノードが正常に再起動してサインインプロンプト状態になるまで待ってから、次の手順に進みます。
- ステップ 12** IM and Presence サブスクライバ ノードで、ソフトウェアを新しいソフトウェアリリースに切り替えます。IM and Presence サブスクライバ ノードが再起動し、新規ソフトウェアリリースでオンラインに復帰したら、次のノードでソフトウェアリリースを切り替えます。各ノードが正常に再起動してサインインプロンプト状態になるまで待ってから、次のノードでソフトウェア切り替え手順を実行します。すべてのサブスクライバ ノードで新規ソフトウェアリリースが実行されるまで手順を繰り返します。
- ステップ 13** 次の CLI コマンドを実行して、データベース レプリケーションがノードでアクティブであることを確認します。
- ```
utils dbreplication runtimestate
```
- すべてのノードでデータベース レプリケーションがアクティブな場合は、出力にはすべてのノードがリストされ、各ノードの**レプリケーション セットアップ値は 2** になります。
- (注) データベース レプリケーションが完了しない場合 (2 以外の値が返される場合) は、レプリケーションが完了するまでサブスクライバ ノードのコアサービスは起動しません。  
[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]>[システム (System)]>[通知 (Notifications)] を選択し、データベース レプリケーションが完了しているかどうかを確認します。
- ステップ 14** IM and Presence サービスのアップグレード後の作業を実行します。

## 関連トピック

- [アップグレード前の作業の実行, \(37 ページ\)](#)
- [ローカル ソースからのアップグレード, \(46 ページ\)](#)
- [リモート ソースからのアップグレード, \(48 ページ\)](#)
- [ソフトウェア バージョンの切り替え, \(52 ページ\)](#)
- [ローカルのインストール, \(57 ページ\)](#)

[Cisco Unified Communications Manager ノードのアップグレード後の作業, \(65 ページ\)](#)  
[IM and Presence ノードのアップグレード後の作業, \(69 ページ\)](#)

## Unified Communications Manager ノードと IM and Presence ノードの更新アップグレード

ネットワークの Unified Communications Manager と IM and Presence サービスの両方のノードを更新アップグレードする場合は、この項で概略を示すタスクを実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** サイトに適用されるアップグレード前の作業をすべて実行します。
- ステップ 2** すべての設定タスクを終了します。アップグレード中は、設定作業を実行しないでください。
- 注意** Cisco Unified CM Administration インターフェイスの [アプリケーションサーバ (Application Server) ] または [サーバの設定 (Server Configuration) ] ページで、IM and Presence サービスのサーバエントリを変更しないでください。IM and Presence サービスのアップグレードプロセスでは、アップグレードプロセスの最終段階 (バージョンの切り替え) で、Cisco Unified Communications Manager クラスタのこれらのエントリが自動的に更新されます。
- リリース 8.x または 9.x からリリース 10.x 以降にアップグレードする場合に、アップグレードプロセス中にこれらのエントリを手動変更すると、IM and Presence サービスと Cisco Unified Communications Manager 間でのデータの移行に失敗します。このような障害が発生した場合は、Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスの両方のクラスタに対してすべてのアップグレードプロセスを再実行する必要があります。
- ステップ 3** COP ファイルを必要とする更新アップグレードを実行する場合は、必要な COP ファイルをインストールします。
- COP ファイルをインストールする必要があるかどうか不明な場合は、サポートされるアップグレードパスの情報を確認してください。
- ステップ 4** Unified Communications Manager パブリッシャ ノードをアップグレードします。Unified Communications Manager パブリッシャ ノードは、クラスタの最初のノードです。
- ステップ 5** 新しいソフトウェア リリースにソフトウェアを切り替えます。これを行うには、[アップグレード後に新バージョンに切り替える (Switch to new version after upgrade) ] を選択します。サブスクライバノードのアップグレードを開始する前に、パブリッシャノードで新しいソフトウェアを実行しておく必要があります。
- ステップ 6** 各 Unified Communications Manager サブスクライバ ノードをアップグレードします。
- ステップ 7** サブスクライバ ノードのソフトウェアを新しいソフトウェア リリースに切り替えます。これを行うには、[アップグレード後に新バージョンに切り替える (Switch to new version after upgrade) ] を選択します。
- (注) サイト要件に応じて、サブスクライバ ノードをすべて同時にまたは 1 つずつ、アップグレードされたパーティションに切り替えることができます。



**ステップ 8** 最初のノード (Unified Communications Manager パブリッシャ ノード) とサブスクリバノード間でデータベース レプリケーションが機能していることを確認します。データベース レプリケーションのステータスは、次のいずれかの方法で確認できます。

- Cisco Unified Reporting で、Cisco Unified Communications Manager データベース ステータス レポートにアクセスします。続行する前に、レポートをチェックして、データベース レプリケーションのステータスが良好で、エラーがないことを確認します。Cisco Unified Reporting の詳細については、『*Cisco Unified Reporting Administration Guide*』を参照してください。
- Cisco リアルタイム監視ツールで、[CallManager] タブの Database Summary サービスにアクセスして、データベースの複製ステータスをモニタします。下記は、データベース レプリケーションのステータスの進行状況を示しています。
  - 0 : 初期化中。レプリケーションのセットアップが進行中です。
  - 1 : このノードでレプリケーション セットアップ スクリプトが実行中。移行状態。
  - 2 : セットアップが完了。レプリケーションがセットアップされ、状態は良好です。
  - 3 : 非同期。レプリケーションはセットアップされましたが、一部のデータが同期していません。
  - 4 : 失敗。レプリケーションのセットアップは成功しませんでした。

先に進む前に、データベース レプリケーションがセットアップされ、状態が良好であることを確認します。リアルタイム監視ツールの詳細については、『*Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide*』を参照してください。

**ステップ 9** Unified Communications Manager ノードのアップグレード後の作業を実行します。

**ステップ 10** COP ファイルを必要とする更新アップグレードを実行する場合は、クラスタ内のすべての IM and Presence ノードに必要な COP ファイルをインストールし、ノードを再起動します。COP ファイルをインストールする必要があるかどうか不明な場合は、サポートされるアップグレードパスの情報を確認してください。詳細については、下記の「関連項目」の項を参照してください。

**ステップ 11** IM and Presence データベース パブリッシャ ノードをアップグレードします。IM and Presence データベース ノードは IM and Presence クラスタの最初のノードです。

**ステップ 12** 新しいソフトウェア リリースにソフトウェアを切り替えます。これを行うには、[アップグレード後に新バージョンに切り替える (Switch to new version after upgrade)] を選択します。IM and Presence サブスクリバノードのアップグレードを開始する前に、IM and Presence データベース パブリッシャ ノードで新しいソフトウェアを実行しておく必要があります。

**ステップ 13** 各 IM and Presence サブスクリバノードをアップグレードします。

**ステップ 14** サブスクリバノードのソフトウェアを新しいソフトウェア リリースに切り替えます。これを行うには、[アップグレード後に新バージョンに切り替える (Switch to new version after upgrade)] を選択します。

**ステップ 15** パブリッシャ ノードまたはサブスクリバノードで次の CLI コマンドを実行し、データベース レプリケーションがノード上でアクティブであることを確認します。

```
utils dbreplication runtimestate
```

すべてのノードでデータベース レプリケーションがアクティブな場合は、出力にはすべてのノードがリストされ、各ノードのレプリケーション セットアップ値は 2 になります。

- (注) データベース レプリケーションが完了していない場合 (2 以外の値が返される)、レプリケーションが完了するまでサブスクリバ ノードのコア サービスは起動しません。  
[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration) ]>[システム (System) ]>[通知 (Notifications) ]を選択し、データベース レプリケーションが完了しているかどうかを確認します。

**ステップ 16** IM and Presence サービスのアップグレード後の作業を実行します。

### 関連トピック

[アップグレード前の作業の実行, \(37 ページ\)](#)

[COP ファイル, \(18 ページ\)](#)

[ローカル ソースからのアップグレード, \(46 ページ\)](#)

[リモート ソースからのアップグレード, \(48 ページ\)](#)

[ソフトウェア バージョンの切り替え, \(52 ページ\)](#)

[ローカルのインストール, \(57 ページ\)](#)

[Cisco Unified Communications Manager ノードのアップグレード後の作業, \(65 ページ\)](#)

[IM and Presence ノードのアップグレード後の作業, \(69 ページ\)](#)

## Unified Communications Manager ノードだけを標準アップグレード

ネットワークの Unified Communications Manager ノードだけを標準アップグレードする場合は、この項で概略を示すタスクを実行します。IM and Presence ノードをアップグレードせずに、Unified Communications Manager ノードをアップグレードする場合は、インストールされている IM and Presence サービスのバージョンが Unified Communications Manager ソフトウェアの新しいバージョンと互換性があることを確認します。



- (注) Cisco Unified Communications Manager 10.0(x) をサービス アップデートまたはメンテナンス リリースの一部としてアップグレードする場合、Cisco Sync Agent は Cisco Unified CM IM and Presence Administration に通知を送信し、IM and Presence サービス データベース パブリッシャ ノードとサブスクリバ ノードを再起動するように指示します。再起動が完了したら、手動でこの通知をクリアする必要があります。アップグレードに関する警告メッセージは、Cisco Unified Communications Manager OS の管理 GUI にも表示されます。

## 手順

- 
- ステップ 1** サイトに適用されるアップグレード前の作業をすべて実行します。
- ステップ 2** すべての設定タスクを終了します。アップグレード中は、設定作業を実行しないでください。
- ステップ 3** Unified Communications Manager パブリッシャ ノードをアップグレードします。Unified Communications Manager パブリッシャ ノードは、クラスタの最初のノードです。
- ステップ 4** Unified Communications Manager サブスクライバ ノードをアップグレードします。
- ステップ 5** すべてのサブスクライバ ノードのアップグレードが完了したら、アップグレードされたソフトウェア バージョンにパブリッシャ ノードを切り替えます。
- ステップ 6** パブリッシャ ノードを新しいバージョンに切り替えたら、サブスクライバ ノードをアップグレードされたソフトウェア バージョンに切り替えます。
- ステップ 7** 最初のノード (Unified Communications Manager パブリッシャ ノード) とサブスクライバ ノード間でデータベース レプリケーションが機能していることを確認します。データベース レプリケーションのステータスは、次のいずれかの方法で確認できます。

- Cisco Unified Reporting で、Cisco Unified Communications Manager データベース ステータス レポートにアクセスします。続行する前に、レポートをチェックして、データベース レプリケーションのステータスが良好で、エラーがないことを確認します。Cisco Unified Reporting の詳細については、『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。
- Cisco リアルタイム監視ツールで、[CallManager] タブの Database Summary サービスにアクセスして、データベースの複製ステータスをモニタします。下記は、データベース レプリケーションのステータスの進行状況を示しています。
  - 0 : 初期化中。レプリケーションのセットアップが進行中です。
  - 1 : このノードでレプリケーションセットアップ スクリプトが実行中。移行状態。
  - 2 : セットアップが完了。レプリケーションがセットアップされ、状態は良好です。
  - 3 : 非同期。レプリケーションはセットアップされましたが、一部のデータが同期していません。
  - 4 : 失敗。レプリケーションのセットアップは成功しませんでした。

先に進む前に、データベース レプリケーションがセットアップされ、状態が良好であることを確認します。リアルタイム監視ツールの詳細については、『Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。

- ステップ 8** Unified Communications Manager ノードのアップグレード後の作業を実行します。
- ステップ 9** Cisco Unified Communications Manager をメンテナンス リリース (MR) または エンジニアリング スペシャル (ES) リリースにアップグレードし、IM and Presence サービスをアップグレードしない場合は、Cisco Unified Communications Manager のアップグレード完了後に、すべての IM and Presence ノードをリブートする必要があります。
-

## 関連トピック

- [アップグレード前の作業の実行, \(37 ページ\)](#)
- [ローカル ソースからのアップグレード, \(46 ページ\)](#)
- [リモート ソースからのアップグレード, \(48 ページ\)](#)
- [ソフトウェア バージョンの切り替え, \(52 ページ\)](#)
- [ローカルのインストール, \(57 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager ノードのアップグレード後の作業, \(65 ページ\)](#)

# Unified Communications Manager ノードだけを更新アップグレード

ネットワークの Unified Communications Manager ノードだけを更新アップグレードする場合は、この項で概略を示すタスクを実行します。IM and Presence ノードをアップグレードせずに、Unified Communications Manager ノードをアップグレードする場合は、インストールされている IM and Presence サービスのバージョンが Unified Communications Manager ソフトウェアの新しいバージョンと互換性があることを確認します。

## 手順

- 
- ステップ 1** サイトに適用されるアップグレード前の作業をすべて実行します。
  - ステップ 2** すべての設定タスクを終了します。アップグレード中は、設定作業を実行しないでください。
  - ステップ 3** COP ファイルを必要とする更新アップグレードを実行する場合は、必要な COP ファイルをインストールします。  
COP ファイルをインストールする必要があるかどうか不明な場合は、サポートされるアップグレードパスの情報を確認してください。
  - ステップ 4** Unified Communications Manager パブリッシャ ノードをアップグレードします。Unified Communications Manager パブリッシャ ノードは、クラスタの最初のノードです。
  - ステップ 5** 新しいソフトウェア リリースにソフトウェアを切り替えます。これを行うには、[アップグレード後に新バージョンに切り替える (Switch to new version after upgrade)] を選択します。サブスクライバノードのアップグレードを開始する前に、パブリッシャノードで新しいソフトウェアを実行しておく必要があります。
  - ステップ 6** Unified Communications Manager サブスクライバ ノードをアップグレードします。
  - ステップ 7** 新しいソフトウェア リリースにソフトウェアを切り替えます。これを行うには、[アップグレード後に新バージョンに切り替える (Switch to new version after upgrade)] を選択します。
  - ステップ 8** 最初のノード (Unified Communications Manager パブリッシャ ノード) とサブスクライバノード間でデータベース レプリケーションが機能していることを確認します。データベース レプリケーションのステータスは、次のいずれかの方法で確認できます。
    - Cisco Unified Reporting で、Unified Communications Manager のデータベース ステータス レポートにアクセスします。続行する前に、レポートをチェックして、データベース レプリケーションのステータスが良好で、エラーがないことを確認します。Cisco Unified Reporting の詳細については、『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。

- Cisco リアルタイム監視ツールで、[CallManager] タブの Database Summary サービスにアクセスして、データベースの複製ステータスをモニタします。下記は、データベースレプリケーションのステータスの進行状況を示しています。
  - 0 : 初期化中。レプリケーションのセットアップが進行中です。
  - 1 : このノードでレプリケーションセットアップスクリプトが実行中。移行状態。
  - 2 : セットアップが完了。レプリケーションがセットアップされ、状態は良好です。
  - 3 : 非同期。レプリケーションはセットアップされましたが、一部のデータが同期していません。
  - 4 : 失敗。レプリケーションのセットアップは成功しませんでした。

先に進む前に、データベースレプリケーションがセットアップされ、状態が良好であることを確認します。リアルタイム監視ツールの詳細については、『*Cisco Unified Real Time Monitoring Tool Administration Guide*』を参照してください。

**ステップ 9** Cisco Unified Communications Manager ノードのアップグレード後の作業を実行します。

**ステップ 10** Unified Communications Manager をメンテナンス リリース (MR) または エンジニアリング スペシャル (ES) リリースにアップグレードし、IM and Presence サービスをアップグレードしない場合は、Unified Communications Manager のアップグレード完了後に、すべての IM and Presence ノードをリブートする必要があります。

#### 関連トピック

[アップグレード前の作業の実行, \(37 ページ\)](#)

[COP ファイル, \(18 ページ\)](#)

[ローカル ソースからのアップグレード, \(46 ページ\)](#)

[リモート ソースからのアップグレード, \(48 ページ\)](#)

[ソフトウェア バージョンの切り替え, \(52 ページ\)](#)

[ローカルのインストール, \(57 ページ\)](#)

[Cisco Unified Communications Manager ノードのアップグレード後の作業, \(65 ページ\)](#)

## IM and Presence ノードだけを標準アップグレード

Unified Communication Manager サブスクリバノードをアップグレードせずに、ネットワーク内の IM and Presence ノードを標準アップグレードする場合は、この項で概略を示すタスクを実行します。

Unified Communication Manager サブスクリバノードをアップグレードせずに、IM and Presence ノードをアップグレードする場合は、インストールされている Unified Communication Manager のバージョンが Unified Communication Manager ソフトウェアの新しいバージョンと互換性があることを確認します。最初の IM and Presence ノード (IM and Presence データベース パブリッシャ ノード)

ド) のソフトウェアバージョンが、Unified Communications Manager パブリッシャ ノードにインストールされているソフトウェアバージョンの先頭の 2 つの番号と一致している必要があります。たとえば、IM and Presence サービスのソフトウェアバージョン 10.0.1.10000-1 は、Cisco Unified Communications Manager のソフトウェアバージョン 10.0.1.30000-2 と互換性があります。

## 手順

- 
- ステップ 1** サイトに適用されるアップグレード前の作業をすべて実行します。
- ステップ 2** すべての設定タスクを終了します。アップグレード中は、設定作業を実行しないでください。
- ステップ 3** Unified Communications Manager パブリッシャ ノードをアップグレードします。Unified Communications Manager パブリッシャ ノードは、クラスタの最初のノードです。
- ステップ 4** IM and Presence データベース パブリッシャ ノードをアップグレードします。IM and Presence データベース パブリッシャ ノードは IM and Presence クラスタの最初のノードです。
- ステップ 5** IM and Presence サブスクリバ ノードをアップグレードします。
- ステップ 6** 新しいソフトウェア リリースにソフトウェアを切り替えます。これを行うには、[アップグレード後に新バージョンに切り替える (Switch to new version after upgrade)] を選択します。次の順序で、アップグレードしたバージョンにソフトウェアを切り替えます。
- Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのソフトウェアを切り替えます。
  - IM and Presence データベース パブリッシャ ノードのソフトウェアを切り替えます。
  - IM and Presence サブスクリバ ノードのソフトウェアを切り替えます。

各ノードが正常に再起動してサインインプロンプト状態になるまで待つから、次のノードでソフトウェアの切り替えを続行します。すべてのサブスクリバノードで新規ソフトウェアリリースが実行されるまで手順を繰り返します。

- ステップ 7** 次の CLI コマンドを実行して、データベース レプリケーションがノードでアクティブであることを確認します。
- ```
utils dbreplication runtimestate
```
- すべてのノードでデータベース レプリケーションがアクティブな場合は、出力にはすべてのノードがリストされ、各ノードの**レプリケーションセットアップ値は 2**になります。
- (注) データベース レプリケーションが完了しない場合 (2 以外の値が返される場合) は、レプリケーションが完了するまでサブスクリバノードのコアサービスは起動しません。[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] > [システム (System)] > [通知 (Notifications)] を選択し、データベース レプリケーションが完了しているかどうかを確認します。
- ステップ 8** IM and Presence サービスのアップグレード後の作業を実行します。
-

IM and Presence アップグレード エラーが発生した場合

Cisco Unified Communications Manager ノードのアップグレードに成功したが、IM and Presence のアップグレードに失敗した場合は、次のいずれかを実行します。

- エラーの原因となった問題に対処した後に、Cisco Unified Communications Manager ノードと IM and Presence ノードの両方でもう一度アップグレードを実行します。
- バックアップが作成されている Cisco Unified Communications Manager ノードで DRS 復元を実行し、IM and Presence ノードのアップグレードを試みる前の設定を復元します。

関連トピック

- [アップグレード前の作業の実行, \(37 ページ\)](#)
- [ローカル ソースからのアップグレード, \(46 ページ\)](#)
- [リモート ソースからのアップグレード, \(48 ページ\)](#)
- [ソフトウェア バージョンの切り替え, \(52 ページ\)](#)
- [ロケールのインストール, \(57 ページ\)](#)
- [IM and Presence ノードのアップグレード後の作業, \(69 ページ\)](#)

IM and Presence ノードだけを更新アップグレード

Unified Communication Manager サブスクリバ ノードをアップグレードせずに、ネットワーク内の IM and Presence ノードを更新アップグレードする場合は、この項で概略を示すタスクを実行します。Cisco Unified Communications Manager サブスクリバ ノードをアップグレードせずに、IM and Presence ノードをアップグレードする場合は、インストールされている Cisco Unified Communications Manager のバージョンが IM and Presence サービス ソフトウェアの新しいバージョンと互換性があることを確認します。

手順

- ステップ 1** サイトに適用されるアップグレード前の作業をすべて実行します。
- ステップ 2** すべての設定タスクを終了します。アップグレード中は、設定作業を実行しないでください。
- ステップ 3** COP ファイルを必要とする更新アップグレードを実行する場合は、必要な COP ファイルをインストールします。
COP ファイルをインストールする必要があるかどうか不明な場合は、サポートされるアップグレードパスの情報を確認してください。詳細については、下記の「関連項目」の項を参照してください。
- ステップ 4** Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードをアップグレードします。Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードは、クラスタの最初のノードです。
- ステップ 5** 新しいソフトウェア リリースにソフトウェアを切り替えます。これを行うには、[アップグレード後に新バージョンに切り替える (Switch to new version after upgrade)] を選択します。IM and

- Presence サブスクライバ ノードのアップグレードを開始する前に、Cisco Unified Communications Manager パブリッシュ ノードで新しいソフトウェアを実行しておく必要があります。
- ステップ 6** IM and Presence データベース ノードをアップグレードします。IM and Presence データベース ノードは IM and Presence クラスタの最初のノードです。
- ステップ 7** 新しいソフトウェア リリースにソフトウェアを切り替えます。これを行うには、[アップグレード後に新バージョンに切り替える (Switch to new version after upgrade)] を選択します。
- ステップ 8** IM and Presence サブスクライバ ノードをアップグレードします。
- ステップ 9** サブスクライバ ノードのソフトウェアを新しいソフトウェア リリースに切り替えます。これを行うには、[アップグレード後に新バージョンに切り替える (Switch to new version after upgrade)] を選択します。
各ノードが正常に再起動してサインインプロンプト状態になるまで待つから、次のノードでソフトウェアの切り替えを続行します。すべてのサブスクライバノードで新規ソフトウェアリリースが実行されるまで手順を繰り返します。
- ステップ 10** 次の CLI コマンドを実行して、データベース レプリケーションがノードでアクティブであることを確認します。
`utils dbreplication runtimestate`
すべてのノードでデータベース レプリケーションがアクティブな場合は、出力にはすべてのノードがリストされ、各ノードのレプリケーションセッアップ値は 2 になります。
(注) データベースレプリケーションが完了しない場合 (2以外の値が返される場合) は、レプリケーションが完了するまでサブスクライバノードのコアサービスは起動しません。
[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] > [システム (System)] > [通知 (Notifications)] を選択し、データベースレプリケーションが完了しているかどうかを確認します。
- ステップ 11** ローカルクラスタおよびリモートクラスタのすべての IM and Presence クライアント ユーザに、いったんサインアウトしてからアプリケーションに再度サインインするよう指示します。
- ステップ 12** IM and Presence サービスのアップグレード後の作業を実行します。

IM and Presence アップグレード エラーが発生した場合

Cisco Unified Communications Manager ノードのアップグレードに成功したが、IM and Presence のアップグレードに失敗した場合は、次のいずれかを実行します。

- エラーの原因となった問題に対処した後に、Cisco Unified Communications Manager ノードと IM and Presence ノードの両方でもう一度アップグレードを実行します。
- バックアップが作成されている Cisco Unified Communications Manager ノードで DRS 復元を実行し、IM and Presence ノードのアップグレードを試みる前の設定を復元します。

関連トピック

[アップグレード前の作業の実行, \(37 ページ\)](#)

[COP ファイル, \(18 ページ\)](#)

[ローカルソースからのアップグレード, \(46 ページ\)](#)

- [リモートソースからのアップグレード, \(48 ページ\)](#)
- [ソフトウェアバージョンの切り替え, \(52 ページ\)](#)
- [ロケールのインストール, \(57 ページ\)](#)
- [IM and Presence ノードのアップグレード後の作業, \(69 ページ\)](#)

並行アップグレード

クラスタ内のノードを同時にアップグレードする場合は、ここに概略を示すタスクを実行します。パブリッシャノードのアップグレードが完了したら、サブスクリバノードのアップグレードを開始できます。更新アップグレードを実行する場合は、すべてのサブスクリバノードが新しいソフトウェアバージョンにアップグレードされるまで、サーバは一時的に停止します。

手順

- ステップ 1** サイトに適用されるアップグレード前の作業をすべて実行します。
- ステップ 2** すべての設定タスクを終了します。アップグレード中は、設定作業を実行しないでください。
- ステップ 3** Unified Communications Manager パブリッシャ ノードをアップグレードします。Unified Communications Manager パブリッシャ ノードは、クラスタの最初のノードです。
- ステップ 4** [Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 (Cisco Unified Communications Operating System Administration)] の [ソフトウェア インストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ウィンドウ、またはコマンドラインインターフェイス (CLI) を使用し、インストール ログを表示してアップグレードのステータスをモニタします。

- インストール ログの表示 :

```
file list install install_* date
install_log_2008-10-01.09.41.57.log
install_log_2008-10-08.12.59.29.log
install_log_2008-10-14.09.31.06.log
dir count = 0, file count = 3
```

- 文字列 PRODUCT_VERSION の最新のインストール ログを検索します。次に例を示します。

```
admin:file search install install_log_2013-01-07.09.39.11.log
PRODUCT_VERSION

Searching path: /var/log/install/install_log_2013-01-07.09.39.11.log
Searching file: /var/log/install/install_log_2013-01-07.09.39.11.log
01/07/2013 09:53:54 post_upgrade|PRODUCT_VERSION is
9.1.1.10000-11|<LVL::Info>
01/07/2013 09:53:54 post_upgrade|PRODUCT_VERSION_DISPLAY is
```

```
9.1.1.10000-11|<LVL::Info>  
Search completed
```

- ステップ 5** パブリッシャノードのアップグレードが完了したら、サブスクリバノードのアップグレードを開始します。
- ステップ 6** パブリッシャノードの新しいソフトウェアをアクティブ化します。
- ステップ 7** サブスクリバノードの新しいソフトウェアをアクティブ化します。
-

関連トピック

- [アップグレード前の作業の実行, \(37 ページ\)](#)
- [ローカルソースからのアップグレード, \(46 ページ\)](#)
- [リモートソースからのアップグレード, \(48 ページ\)](#)
- [ソフトウェアバージョンの切り替え, \(52 ページ\)](#)



第 4 章

アップグレード前の作業

- [アップグレード前の作業の実行, 37 ページ](#)
- [仮想マシン構成仕様の変更, 40 ページ](#)
- [vSphere ESXi のアップグレード, 41 ページ](#)
- [アップグレードファイルの取得, 42 ページ](#)
- [仮想ディスクサイズの拡大, 42 ページ](#)

アップグレード前の作業の実行

アップグレードを開始する前に、次の作業を実行します。



- (注) リリース 10.0(1) 以降からアップグレードする場合は、この手順で言及しているディスク拡張用の Cisco Options Package (COP) ファイルをインストールする必要はありません。

手順

- ステップ 1** 新しいリリースのリリースノートを読んで、新しい機能について理解し、システムに関連する他の製品とアップグレード処理との相互作用について理解しておきます。
- ステップ 2** このマニュアルに記載されている必要条件および制限について理解しておきます。ネットワーク要件、プラットフォーム要件、ソフトウェア要件を含め、システムがすべての要件を満たしていることを確認します。
- ステップ 3** アップグレードする元のソフトウェアバージョンが仮想マシンで実行されていることを確認します。現在の展開が MCS ハードウェア上で稼動している場合は、仮想クラスタに既存のクラスタ

を移行する方法について『Cisco Prime Collaboration Deployment Administration Guide』を参照してください。

ステップ 4 Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用して、共通パーティションにアップグレード用の十分な空き領域があることを確認します。通常、共通パーティション領域として少なくとも 25GB が必要です。ただし、多数の TFTP データ (デバイスファームウェアのロード) や保留音 (MOH) ファイルがある場合、または多数のロケールファイルがインストールされている場合は、展開においてさらに多くの領域が必要となることがあります。十分な空き領域がない場合は、次の 1 つ以上の作業を実行して必要な領域を作成します。

- Cisco Log Partition Monitoring Tool を使用して、基準値の上限と下限を調整し、トレースの削減と不要ログファイルの削除を行います。下限値を 30、上限値を 40 に調整することをお勧めします。トレースの早すぎるページを避けるために、アップグレード後、基準値の上限と下限を元の値に戻す必要があります。基準値のデフォルトの上限は 85 です。基準値のデフォルトの下限は 80 です。Cisco Log Partition Monitoring Tool の使用方法については、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。
- 9.x 以前からのアップグレードでは、仮想環境のディスク領域に余裕がある場合は、Disk Expansion COP ファイル (ciscocm.vmware-disk-size-reallocation-<latest_version>.cop.sgn) を使用して、vDisk のサイズを拡大します。先に進む前に、この COP ファイルに関する Readme ファイルを確認してください。
- Free Common Space COP ファイル (ciscocm.free_common_space_v<latest_version>.cop.sgn) を使用します。この COP ファイルを使用すると、システムを再構築することなく、共通パーティションの非アクティブ側を削除して使用可能なディスク領域を増やすことができます。先に進む前に、この COP ファイルに関する Readme ファイルを確認してください。
- TFTP ディレクトリから古いまたは未使用のファームウェア ファイルを手動で削除します。OS 管理インターフェイスの [TFTP ファイルの管理 (TFTP File Management)] ページを使用してこれらのファイルを削除するか、コマンドラインインターフェイスで `file list tftp` と `file delete tftp` コマンドを使用できます。

COP ファイルと Readme ファイルは、Cisco.com からダウンロードできます。[サポート (Support)] > [ダウンロード (Downloads)] > [Cisco Unified Communications Manager Version 10.0] > [Unified Communications Manager/CallManager/Cisco Unity Connection ユーティリティ (Unified Communications Manager/CallManager/Cisco Unity Connection Utilities)] に移動してください。

注意 十分なディスク領域がない状態でアップグレードを実行すると、システムで障害が発生する可能性があります。

ステップ 5 必要なアップグレード用 COP ファイルをダウンロードします。COP ファイルは更新アップグレードにのみ必要です。必要な COP ファイルを判断するには、下記の「関連項目」の項に示されている、COP ファイルおよびサポートされているアップグレードパスの情報を参照してください。

ステップ 6 新しいリリース用の必要なライセンス ファイルがあることを確認します。

ステップ 7 システムをバックアップし、バックアップファイルの格納場所としてネットワークデバイスを使用していることを確認します。Unified Communications Manager の仮想化展開では、テープドライブによるバックアップ ファイルの保存はサポートされません。詳細については、『Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。

- ステップ 8** リリース 10.5 以降の WebDAV からのアップグレードはサポートされていません。アップグレード前にすべての WebDAV ゲートウェイを削除する必要があります。
- ステップ 9** Cisco Unified Communications Manager をアップグレードする場合は、次の追加タスクを実行します。
- a) リリース 8.x または 9.x からアップグレードする場合は、Cisco Unified Communications Manager のデフォルトの管理パスワードに特殊文字が含まれていると、IM and Presence Service と Cisco Unified Communications Manager 間の接続に失敗します。リリース 8.x または 9.x からアップグレードする前に、パスワードを変更して、すべての特殊文字を削除してください。
 - b) Cisco Unified Communications Manager サブスクリバノードが複製を要求する時間を十分にとれるように大規模なクラスタをアップグレードする場合は、**utils dbreplication setrepltimeout** CLI コマンドを使用してデータベース レプリケーションのタイムアウト値を大きくします。タイマーが期限切れになると、最初の Cisco Unified Communications Manager サブスクリバノード、および期限内に複製を要求した他のすべての Cisco Unified Communications Manager サブスクリバノードは、Cisco Unified Communications Manager データベース パブリッシャ ノードによって、バッチデータ レプリケーションを開始します。デフォルトのデータベース レプリケーションのタイムアウト値は 300 (5 分)。クラスタ全体をアップグレードした後にタイムアウト値をデフォルトに戻すと、Cisco Unified Communications Manager サブスクリバノードは正常に複製をセットアップします。詳細については、『*Command Line Interface Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。
 - c) Cisco Unified Mobile Communicator のデバイス名が 15 文字以内であることを確認します。Cisco Unified Mobile Communicator のデバイス名が 15 文字を超えていると、アップグレード時にデバイスが移行されません。
 - d) デバイスの IP サブネット マスクが 255.255.255.0 の書式を使用して設定されていることを確認してください。**set network ip eth0 <server_IP_address> 255.255.255.0** コマンドを実行することで、サブネット マスクを変更できます。
 - e) Cisco Unified Communications Manager クラスタをアップグレードする前に、**utils network ipv6 ping** CLI コマンドを実行して、最初のノード (Cisco Unified Communications Manager データベース パブリッシャ ノード) と Cisco Unified Communications Manager サブスクリバノードの IPv6 ネットワークを確認します。Cisco Unified Communications Manager サブスクリバノードで IPv6 が正しく設定されていないと、ロードの検出に 20 分かかることがあります。
 - f) リリース 9.0 以降のソフトウェアをアップグレードする前に、Cisco Unified Communications Manager に 9.0 より前のライセンスを適用します。リリース 9.0 以降のソフトウェアにアップグレードした後は、これらのライセンスを Cisco Unified Communications Manager に適用できなくなります。また、Enterprise License Manager を使用して適用することもできません。システムをアップグレードする前に、必ず、すべての未使用ライセンスまたは製品認証キー (PAK) をインストールしてください。先に進む前に、Cisco Unified Communications Manager に、すべての未使用ライセンスをインストールすることを促す警告が表示されます。
- ステップ 10** IM and Presence サービスをアップグレードする場合は、以下の追加タスクを実行します。
- a) IM and Presence プレゼンス冗長グループのハイ アベイラビリティを無効にします。[Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] > [システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
詳細については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

- b) IM and Presence のアップグレードの一環として Cisco Unified Communications Manager をアップグレードする必要がある場合は、IM and Presence Sync Agent サービスを停止し、再起動する必要があります。Sync Agent サービスを再起動するには、[Cisco Unified CM IM and Presence の サービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)]に移動し、[ツール (Tools)] > [コントロールセンターのネットワーク サービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
- c) IM and Presence サービスノードが Cisco Unified Communications Manager に接続できることを確認します。
Cisco Unified CM IM and Presence の管理システム トラブルシュータを使用して、ノードの接続を確認できます。

関連トピック

- [要件および制約事項, \(3 ページ\)](#)
- [サポートされているアップグレードパス, \(9 ページ\)](#)
- [仮想マシン構成仕様の変更, \(40 ページ\)](#)
- [vSphere ESXi のアップグレード, \(41 ページ\)](#)
- [COP ファイル, \(18 ページ\)](#)
- [アップグレードファイルの取得, \(42 ページ\)](#)

仮想マシン構成仕様の変更

Unified Communications Manager または IM and Presence Service の新しいリリースにアップグレードするために、仮想マシン (VM) の構成仕様を変更する必要がある場合は、次の手順を実行します。構成仕様には vCPU、vRAM、vDisk サイズなどが含まれます。VM 要件の詳細については、リリースに対応する OVA テンプレートの README ファイルを参照してください。OVA テンプレートの詳細については、http://docwiki.cisco.com/wiki/Implementing_Virtualization_Deployments で Virtualization Docwiki を参照してください。



- (注) リリース 10.0(1) 以降からアップグレードする場合は、この手順で言及しているディスク サイズ再割り当て用の COP ファイルをインストールする必要はありません。

手順

- ステップ 1** ディザスタリカバリシステム (DRS) のバックアップを実行します。バックアップの実行の詳細については、『*Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- ステップ 2** (任意) (任意) 9.x 以前からのアップグレードで、更新アップグレードの容量要件を満たすために vDisk 領域を増やす必要がある場合は、次の COP ファイルをインストールします。

```
ciscocm.vmware-disk-size-reallocation-<latest_version>.cop.sgn
```

ステップ3 仮想マシンをシャットダウンします。

ステップ4 必要に応じて仮想マシンの設定を変更します。

- a) 新しいリリース (Red Hat Enterprise Linux 6 (64-bit)) の要件に合わせて、ゲスト OS のバージョンを変更します。
- b) vCPU を変更するには、vSphere クライアントで変更を行います。必ず、新しいリリースの仕様に合わせて予約値を変更してください。
- c) vRAM を変更するには、vSphere クライアントで変更を行います。必ず、新しいリリースの仕様に合わせて予約値を変更してください。
- d) vDisk 領域を増やすには、vDisk を使用してディスク サイズを編集します。仮想マシンに 2 台のディスクがある場合は、2 番目のディスクを拡張します。
仮想マシンを再起動すると、共通パーティションに新しい領域が自動的に追加されます。

(注) アップグレードを完了させるために追加の容量が必要な場合にのみ、ディスク サイズを変更する必要があります。ディスク容量は OVA テンプレートの Readme ファイルで指定されます。

ディスク サイズを拡大して共通パーティションに領域を追加しても、システムのユーザキャパシティは増加しません。システムのユーザキャパシティを拡張する必要がある場合は、単一ディスクの仮想マシンから複数ディスクの仮想マシンに移行する必要があります。詳細については、『*Replace a Single Server or Cluster for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

vSphere クライアントを使用した設定の変更については、製品のユーザ マニュアルを参照してください。

ステップ5 最新バージョンのソフトウェアにアップグレードします。

ステップ6 VMXNET 3 アダプタ タイプを使用するようにネットワーク アダプタを変更します。
このリリースの要件に応じたネットワーク アダプタの変更については、OVA テンプレートの Readme ファイルを参照してください。

ステップ7 仮想マシンの電源をオンにします。

vSphere ESXi のアップグレード

Unified Communications Manager の新しいリリースにアップグレードするために vSphere ESXi ハイパーバイザを更新する必要がある場合は、次の手順を使用します。

手順

ステップ1 次のいずれかの方法で、Unified Communications Manager を実行している仮想マシンをホストサーバから移動します。

- ホットスタンバイ ホストがある場合は、vMotion を使用して別の物理サーバに仮想マシンを移行します。
- ホットスタンバイ ホストがない場合は、仮想マシンの電源を切り、別の場所にコピーします。

ステップ 2 VMware によって示されるアップグレード手順を使用して、vSphere ESXi をアップグレードします。

ステップ 3 vSphere ESXi が正常にアップグレードされたことを確認します。

ステップ 4 次のいずれかの方法で、Unified Communications Manager を実行している仮想マシンをホストサーバに戻します。

- ホットスタンバイ ホストがある場合は、vMotion を使用して別の物理サーバに仮想マシンを移行します。
- ホットスタンバイ ホストがない場合は、仮想マシンの電源を切り、ホストサーバにコピーします。

次の作業

vSphere ESXi をアップグレードするために、仮想マシンのバージョンまたは VMware の互換バージョンを更新する場合は、次に進みます。 [仮想マシン構成仕様の変更](#)、(40 ページ)

アップグレードファイルの取得

アップグレードプロセスを開始する前に、適切なアップグレードファイルを Cisco.com から取得する必要があります。

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Release Notes*』を参照してください。

インストールプロセス中も、ローカル DVD またはリモートの FTP/SFTP サーバから、アップグレードファイルにアクセスできます。アップグレードファイルにアクセスする際に入力するディレクトリ名とファイル名は、大文字と小文字が区別されるため、注意してください。

仮想ディスクサイズの拡大

アップグレードまたはディスク ロギング アクティビティ用に VM に一時ディスク領域を追加する必要がある場合は、次の手順を実行します。これらの手順はシステムの稼動中に実行できますが、増加したディスク サイズを有効にするにはシステムをリブートする必要があります。



(注) 共通パーティションは増加することのみ可能です。削減することはできません。

はじめる前に

システムのバックアップを実行します。『[Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)』を参照してください。

仮想マシン (VM) のスナップショットを削除します。削除しないと、ディスク サイズの増加オプションはグレー表示されます。『[Working with Snapshots](#)』を参照してください。

手順

-
- ステップ 1 VMware Infrastructure (VI) クライアントを開き、VirtualCenter または ESX ホストに接続します。
 - ステップ 2 VM を右クリックして、[設定の編集 (Edit Settings)] を選択します。
 - ステップ 3 [仮想ディスク (Virtual Disk)] を選択します。
 - ステップ 4 リストに示される値よりも大きい値をギガバイト (GB) 単位で入力し、ディスクストレージ容量を拡張します。
 - ステップ 5 CLI で、**utils system restart** コマンドを使ってシステムをリブートします。
-



第 5 章

アップグレード作業

ここでは、アップグレードの実行手順について説明します。

- [はじめる前に, 45 ページ](#)
- [アップグレード手順, 46 ページ](#)
- [バージョンの切り替え, 50 ページ](#)
- [以前のバージョンへの切り替え, 53 ページ](#)

はじめる前に

- インストール前のタスクを確認し、すべての手順を実行したことを確認します。
- すべての設定タスクを終了します。アップグレード中は、設定に変更を加えないでください。アップグレード中に行った設定変更はアップグレード完了後に失われる可能性があり、一部の設定変更によってアップグレードに失敗することもあります。
- インストールする前に、アップグレードファイルの名前を変更しないでください。システムで有効なファイルとして認識されなくなります。
- ファイルを圧縮しないでください。これを行うと、アップグレードファイルを読み込めなくなる場合があります。
- IM and Presence サービス ソフトウェアにアップグレードする場合は、ユーザの連絡先リストのサイズが上限に達していないことを確認してください。連絡先リストのサイズが上限に達しているユーザがいる場合は、Cisco Unified CM IM and Presence Administration の [システム トラブルシュータ (System Troubleshooter)] に表示されます。



注意

更新アップグレード中は、トラフィックが処理されなくなり、何度か再起動する必要があるため、更新アップグレードはメンテナンス時間帯に実行してください。

アップグレード手順

インストールプロセスの実行中、アップグレードファイルには、ローカルの CD または DVD、あるいはリモートの FTP または SFTP サーバからアクセスします。アップグレードファイルにアクセスする際に入力するディレクトリ名とファイル名は、大文字と小文字が区別されるため、注意してください。



(注) いずれかの段階でアップグレードをキャンセルした場合、またはアップグレードに失敗した場合は、サーバをリブートしてから、もう一度アップグレードを実行してください。

関連トピック

- [ローカルソースからのアップグレード, \(46 ページ\)](#)
- [リモートソースからのアップグレード, \(48 ページ\)](#)

ローカルソースからのアップグレード

ローカルディスクドライブで CD や DVD を使用して、Unified Communications Manager または IM and Presence サービスの新しいリリースにアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** アップグレードファイルにアクセスできることを確認します。次のいずれかのオプションを選択します。
 - CD または DVD をアップグレードするローカルサーバのディスクドライブに挿入します。
 - ローカル ESXi ホストでデータストア ISO ファイルを作成します。
 - ESXi ホストに接続されたストレージエリアネットワーク (SAN) でデータストア ISO ファイルを作成します。
- ステップ 2** アップグレードするノードの管理ソフトウェアにログインします。
 - IM and Presence ノードをアップグレードする場合は、[Cisco Unified IM and Presence オペレーティングシステムの管理 (Cisco Unified IM and Presence Operating System Administration)] にログインします。

- Cisco Unified Communications Manager ノードをアップグレードする場合は、[Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 (Cisco Unified Communications Operating System Administration)] にログインします。

- ステップ 3** COP ファイルを必要とする更新アップグレードを実行する場合は、必要な COP ファイルをインストールします。
COP ファイルをインストールする必要があるかどうか不明な場合は、サポートされるアップグレードパスの情報を確認してください。詳細については、下記の「関連項目」の項を参照してください。
- ステップ 4** [ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades)] > [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] を選択します。
- ステップ 5** [ソース (Source)] リストから [DVD/CD] を選択するか、仮想マシンを編集して ISO ファイルにマッピングします。
- ステップ 6** [ディレクトリ (Directory)] フィールドに、パッチファイルの場所へのパスを入力します。ファイルがルートディレクトリにある場合は、スラッシュ (/) を入力します。
- ステップ 7** [メール通知 (Email Notification)] フィールドに電子メールアドレス、[SNMP サーバ (SMTP Server)] フィールドに IP アドレスを入力します。これで、アップグレードが正常に完了したときにメール通知を受信できるようになります。
(注) これらのフィールドは更新アップグレードの場合にのみ表示されません。
- ステップ 8** [次へ (Next)] を選択して、アップグレードプロセスを続行します。
- ステップ 9** インストールするアップグレードバージョンを選択し、[次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 10** ファイル名と転送されるメガバイト数など、ダウンロードの進行状況を監視します。
- ステップ 11** ダウンロードが完了したら、Cisco.com からダウンロードしたファイルのチェックサム値と、表示されているチェックサム値を確認します。
- ステップ 12** 次のいずれかの操作を実行します。

標準アップグレードの場合：

- シングルノードの展開で、アップグレードをインストールし、アップグレードされたソフトウェアに自動的にリブートするには、[アップグレードされたパーティションをリブート (Reboot to upgraded partition)] を選択します。
- マルチノード展開の場合は、[アップグレード後にリブートしない (Do not reboot after upgrade)] を選択します。この選択によって、アップグレードをインストールしてから、後でアップグレード済みソフトウェアを手動でリブートできます。手動でシステムをリブートしてアップグレードをアクティブ化する方法については、下記の「関連項目」の項を参照してください。

更新アップグレードの場合：

- [アップグレード後に新バージョンに切り替えしない (Do not switch to new version after upgrade)] を選択するのは、段階的なアップグレードの場合のみです。

- 新しいアクティブなソフトウェアバージョンのままにするには、[アップグレード後に新バージョンに切り替える (Switch to new version after upgrade)] を選択します。

(注) アップグレード中の切り替えルールの詳細については、下記の「関連項目」の項を参照してください。

ステップ 13 [次へ (Next)] を選択し、インストールが完了したら [完了 (Finish)] を選択します。

関連トピック

- [Cisco Unified Communications Manager のアップグレードパス, \(10 ページ\)](#)
- [IM and Presence サービスのアップグレードパス, \(10 ページ\)](#)
- [バージョンの切り替え, \(50 ページ\)](#)

リモートソースからのアップグレード

ネットワークドライブまたはリモートノードからソフトウェアを使用して、Cisco Unified Communications Manager や IM and Presence サービスの新しいリリースにアップグレードするには、次の手順を実行します。ネットワークドライブまたはリモートノードは、アップグレードする各ノードからアクセスできる SFTP/FTP サーバを実行している必要があります。

手順

ステップ 1 アップグレードするノードの管理ソフトウェアにログインします。

- IM and Presence ノードをアップグレードする場合は、[Cisco Unified IM and Presence オペレーティングシステムの管理 (Cisco Unified IM and Presence Operating System Administration)] にログインします。
- Cisco Unified Communications Manager ノードをアップグレードする場合は、[Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理 (Cisco Unified Communications Operating System Administration)] にログインします。

ステップ 2 COP ファイルを必要とする更新アップグレードを実行する場合は、必要な COP ファイルをインストールします。
COP ファイルをインストールする必要があるかどうか不明な場合は、サポートされるアップグレードパスの情報を確認してください。詳細については、下記の「関連項目」の項を参照してください。

- ステップ 3** [ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades)]>[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] を選択します。
- ステップ 4** [ソース (Source)] リストから [リモートファイルシステム (Remote Filesystem)] を選択します。
- ステップ 5** リモートシステム上のディレクトリパスを、[ディレクトリ (Directory)] フィールドに入力します。
- ステップ 6** [サーバ (Server)] フィールドに FTP または SFTP サーバ名を入力します。
- ステップ 7** [ユーザ名 (User Name)] フィールドに、リモートノードのユーザ名を入力します。
- ステップ 8** [ユーザパスワード (User Password)] フィールドに、リモートノードのパスワードを入力します。
- ステップ 9** [メール通知 (Email Notification)] フィールドに電子メールアドレス、[SNMPサーバ (SMTP Server)] フィールドに IP アドレスを入力します。これで、アップグレードが正常に完了したときにメール通知を受信できるようになります。
- (注) これらのフィールドは更新アップグレードの場合にのみ表示されません。
- ステップ 10** [転送プロトコル (Transfer Protocol)] フィールドに転送プロトコル (SFTP など) を入力します。
- ステップ 11** [次へ (Next)] を選択して、アップグレードプロセスを続行します。
- ステップ 12** インストールするアップグレードバージョンを選択し、[次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 13** ファイル名と転送されるメガバイト数など、ダウンロードの進行状況を監視します。
- ステップ 14** ダウンロードが完了したら、Cisco.com からダウンロードしたファイルのチェックサム値と、表示されているチェックサム値を確認します。
- ステップ 15** 次のいずれかの操作を実行します。

標準アップグレードの場合：

- シングルノードの展開で、アップグレードをインストールし、アップグレードされたソフトウェアに自動的にリポートするには、[アップグレードされたパーティションをリブート (Reboot to upgraded partition)] を選択します。
- マルチノードの展開の場合は、[アップグレード後にリブートしない (Do not reboot after upgrade)] を選択します。この場合、アップグレードをインストールしてから、後で手動でリブートしてアップグレードされたソフトウェアを有効にすることができます。手動でシステムをリブートしてアップグレードをアクティブ化する方法については、下記の「関連項目」の項を参照してください。

更新アップグレードの場合：

- [アップグレード後に新バージョンに切り替えない (Do not switch to new version after upgrade)] を選択するのは、段階的なアップグレードの場合のみです。
- 新しいアクティブなソフトウェアバージョンのままにするには、[アップグレード後に新バージョンに切り替える (Switch to new version after upgrade)] を選択します。

(注) アップグレード中に切り替える場合のルールについては、「アップグレード中のバージョン切り替えルール」のトピックを参照してください。

ステップ 16 [次へ (Next)] を選択し、インストールが完了したら [完了 (Finish)] を選択します。

関連トピック

[Cisco Unified Communications Manager のアップグレードパス, \(10 ページ\)](#)

[IM and Presence サービスのアップグレードパス, \(10 ページ\)](#)

[バージョンの切り替え, \(50 ページ\)](#)

バージョンの切り替え

アップグレード中にバージョンを手動で切り替える場合は、いくつかのルールに従う必要があります。次の表は、リリース 10.x ソフトウェア バージョンをアクティブ化するバージョン切り替えルールと、以前のソフトウェア バージョンに戻すバージョン切り替えルールを示しています。



(注) ノードのバージョンは切り替えることができません。切り替えると、バージョン一致要件に違反することになります。このルールは、新しいソフトウェア バージョンに切り替える場合または以前のソフトウェア バージョンに戻す場合に適用されます。

製品	ノードタイプ	切り替え前のバージョン	切り替え後のバージョン	切り替えルール
ソフトウェア バージョンのアクティブ化				
Unified Communications Manager	パブリッシャ	8.x または 9.x	10.x	サブスクライバノードのソフトウェア バージョンを切り替える前に、パブリッシャ ノードのソフトウェア バージョンを切り替える必要があります。
		10.x	10.y	
Unified Communications Manager	サブスクライバ	8.x または 9.x	10.x	パブリッシャ ノードが新しいバージョンに切り替え済みの場合にサポートされます。切り替え後のソフトウェア バージョンは、Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのアクティブパーティションのバージョン番号と一致していなければなりません。
		10.x	10.y	

製品	ノードタイプ	切り替え前のバージョン	切り替え後のバージョン	切り替えルール
IM and Presence Service	データベースパブリッシャ	8.x または 9.x	10.x	切り替え後のソフトウェアバージョンが Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのアクティブパーティションのメジャーおよびマイナーバージョン番号と一致する場合にサポートされます。
		10.x	10.y	
IM and Presence Service	サブスクライバ	8.x または 9.x	10.x	このノードのソフトウェアバージョンが IM and Presence データベースパブリッシャノードの5つのバージョン番号と一致する場合にサポートされます。
		10.x	10.y	
以前のソフトウェアバージョンへの切り替え				
Unified Communications Manager	パブリッシャ	10.x	8.x または 9.x	サポート済み。サブスクライバノードのソフトウェアバージョンを切り替える前に、パブリッシャノードのソフトウェアバージョンを切り替える必要があります。
		10.y	10.x	
Unified Communications Manager	サブスクライバ	10.x	8.x または 9.x	CUCM パブリッシャ ノードが以前のバージョンに切り替え済みの場合にサポートされます。切り替え後のソフトウェアバージョンは、Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのアクティブパーティションのバージョン番号と一致していなければなりません。パブリッシャ ノードが新しいバージョンを実行している場合は、サブスクライバノードを以前のバージョンに切り替えることができません。
		10.y	10.x	

製品	ノードタイプ	切り替え前のバージョン	切り替え後のバージョン	切り替えルール
IM and Presence Service	データベースパブリッシャ	10.x	8.x または 9.x	<p>Unified Communications Manager パブリッシャ ノードで切り替え後のバージョンよりも新しいソフトウェアバージョンが実行されている場合は、サポートされません。 Unified Communications Manager を新しいバージョンにアップグレードした後に IM and Presence データベース パブリッシャ ノードを以前のリリースに切り替えると、バージョン不一致要件に違反することになります。</p> <p>以前のリリースへの切り替えは、切り替え後のソフトウェアバージョンが Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのアクティブパーティションのメジャーおよびマイナーバージョン番号に一致する場合にのみサポートされます。</p>
		10.y	10.x	
IM and Presence Service	サブスクライバ	10.x	8.x または 9.x	<p>IM and Presence パブリッシャ ノードで切り替え後のバージョンよりも新しいソフトウェアバージョンが実行されている場合は、サポートされません。</p> <p>以前のリリースへの切り替えは、このノードのソフトウェアバージョンが IM and Presence データベース パブリッシャ ノードの5つのバージョン番号に一致する場合にのみサポートされます。</p>
		10.y	10.x	

ソフトウェアバージョンの切り替え

標準アップグレードを実行すると、新しいソフトウェアは非アクティブなバージョンとしてインストールされます。アップグレード処理中に新しいソフトウェアでリブートするか、後から新しいバージョンに切り替えることができます。

バージョンを切り替えると、システムが再起動し、非アクティブなソフトウェアがアクティブになります。システムの再起動には、最大で15分ほどかかります。この手順を実行すると、アクティブなソフトウェアバージョンと非アクティブなバージョンの両方が表示されます。



注意

この手順を実行すると、システムが再起動し、一時的に使用できない状態になります。

はじめる前に

Cisco Unified Communications Manager ノードと IM and Presence ノードのソフトウェア バージョンは、手動切り替えルールに従って一致させる必要があります。したがって、IM and Presence を切り替える前に、Unified Communications Manager を切り替える必要があります。

手順

- ステップ 1** マルチノード展開でバージョンを切り替えるには、まずパブリッシャ ノードから切り替える必要があります。
- ステップ 2** アップグレードするノードの管理ソフトウェアにログインします。
- IM and Presence ノードをアップグレードする場合は、[Cisco Unified IM and Presence オペレーティング システムの管理 (Cisco Unified IM and Presence Operating System Administration)] にログインします。
 - Unified Communications Manager ノードをアップグレードする場合は、[Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 (Cisco Unified Communications Operating System Administration)] にログインします。
- ステップ 3** [設定 (Settings)] > [バージョン (Version)] の順で選択します。
IM and Presence ノードのすべてのサービスが開始済みの状態になるまでに時間がかかることがあります。[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] > [システム (System)] > [クラスター トポロジ (Cluster Topology)] の順に選択し、ツリー ビューからノードを選択して、ノードのサービス ステータスをモニタします。
- ステップ 4** アクティブなソフトウェアと非アクティブなソフトウェアのバージョンを確認します。
- ステップ 5** [バージョンの切り替え (Switch Versions)] を選択して、バージョンを切り替え、システムを再起動します。

Unified Communications Manager をアップグレードする場合、バージョンの切り替えを実行した後に、IP 電話から新しい設定ファイルを要求されます。この要求の結果、デバイスのファームウェアは自動的にアップグレードされます。

以前のバージョンへの切り替え

必要に応じて、アップグレード前に実行していたソフトウェア バージョンに戻すことができます。これを行うには、[バージョンの切り替え (Switch Version)] オプションを使用して、システムを非アクティブなパーティションのソフトウェア バージョンに切り替えます。

以前のバージョンへのクラスタの切り替え

以前のバージョンにクラスタを切り替えるには、次の基本タスクを実行します。

手順

-
- ステップ 1** パブリッシャ ノードをスイッチバックします。
 - ステップ 2** すべてのバックアップ サブスクリバ ノードをスイッチバックします。
 - ステップ 3** すべてのプライマリ サブスクリバ ノードをスイッチバックします。
 - ステップ 4** 以前の製品リリースに戻す場合は、クラスタ内のデータベース レプリケーションをリセットします。
-

関連トピック

[ソフトウェア バージョンの切り替え, \(52 ページ\)](#)

以前のバージョンへのノードの切り替え

手順

-
- ステップ 1** アップグレードするノードの管理ソフトウェアにログインします。
 - IM and Presence ノードをアップグレードする場合は、[Cisco Unified IM and Presence オペレーティング システムの管理 (Cisco Unified IM and Presence Operating System Administration)] にログインします。
 - Cisco Unified Communications Manager ノードをアップグレードする場合は、[Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 (Cisco Unified Communications Operating System Administration)] にログインします。
 - ステップ 2** [設定 (Settings)] > [バージョン (Version)] を選択します。
[バージョン設定 (Version Settings)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** [バージョンの切り替え (Switch Versions)] ボタンをクリックします。
システムの再起動について確認すると、システムが再起動します。処理が完了するまでに最大で 15 分かかることがあります。
 - ステップ 4** バージョンの切り替えが正常に完了したことを確認するには、次の手順を実行します。
 - a) アップグレードするノードの管理ソフトウェアに再度ログインします。
 - b) [設定 (Settings)] > [バージョン (Version)] を選択します。
[バージョン設定 (Version Settings)] ウィンドウが表示されます。

- c) アクティブなパーティションで適切な製品バージョンが実行されていることを確認します。
- d) アクティブにしたサービスがすべて動作していることを確認します。
- e) パブリッシャ ノードの場合は、[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] にログインします。
- f) ログインできること、および設定データが存在することを確認します。

データベース レプリケーションのリセット

以前の製品リリースを実行するようにクラスタ内のサーバの設定を元に戻すには、クラスタ内のデータベース レプリケーションを手動でリセットする必要があります。すべてのクラスタサーバを以前の製品リリースに戻した後にデータベース レプリケーションをリセットするには、パブリッシャサーバで CLI コマンド **utils dbreplication reset all** を入力します。

Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理または CLI を使用してバージョンを切り替えると、古い製品リリースに戻した場合はデータベース複製をリセットする必要があることを示すメッセージが表示されます。

Cisco Unified Presence 8.6(3) 以前のバージョンへの切り替え

Cisco Unified Presence Release 8.6(4) 以降では、Cisco Presence Engine データベースはサポートされません。リリース 8.6(3) 以前からアップグレードし、その後、以前のリリースに戻す場合は、Cisco Presence Engine データベースを再インストールする COP ファイルをインストールします。COP のファイル名は `ciscocm.cup.pe_db_install.cop` で、Cisco.com からダウンロードできます。



(注) マルチノード環境では、Cisco Unified Presence Release 8.6(4) 以降からバージョンを切り替えた後に、クラスタ内のすべてのノードに COP ファイルをインストールする必要があります。

このリリースでは、リリース 8.6(3) よりも前のバージョンにダウングレードできません。



(注) COP ファイルをインストールした後に、システムを再起動する必要があります。

はじめる前に

Cisco Unified Communications Manager のバージョンを切り替えます。

手順

-
- ステップ 1** Cisco.com から COP ファイル `ciscocm.cup.pe_db_install.cop` をダウンロードします。
- ステップ 2** Cisco Unified IM and Presence オペレーティング システムの管理にサインインします。
- ステップ 3** [設定 (Settings)] > [バージョン (Version)] の順で選択します。
- ステップ 4** アクティブなソフトウェアと非アクティブなソフトウェアのバージョンを確認します。
(注) この手順は、Release 9.0 以降から 8.6(4) 以前のリリースに戻す場合にのみ実行します。
- ステップ 5** [バージョンの切り替え (Switch Versions)] を選択して前のリリースに戻し、システムを再起動します。
- ステップ 6** システムが再起動した後に、COP ファイルをインストールします。
(注) マルチノード環境では、クラスタ内のすべてのノードに COP ファイルをインストールする必要があります。
- ステップ 7** COP ファイルをインストール後、システムを手動で再起動します。[設定 (Settings)] > [バージョン (Version)] の後に [リスタート (Restart)] を選択します。
- ステップ 8** パブリッシャ ノードかサブスクライバ ノードで CLI コマンド `utils dbreplication runtimestate` を実行し、ノードでデータベース レプリケーションがアクティブであることを確認します。すべてのノードでデータベース レプリケーションがアクティブな場合は、出力にはすべてのノードがリストされ、各ノードのレプリケーションセットアップ値は 2 になります。データベース レプリケーションが完了していない場合 (2 以外の値が返される)、レプリケーションが完了するまでサブスクライバ ノードのコア サービスは起動しません。
- ステップ 9** [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] > [システム (System)] > [通知 (Notifications)] を選択し、データベース レプリケーションが完了しているかどうかを確認します。
- ステップ 10** データベース レプリケーションを確立できない場合は、パブリッシャ ノードで CLI コマンド `utils dbreplication reset all` を実行し、レプリケーションをリセットします。
-



第 6 章

アップグレード後の作業

ここでは、Cisco Unified Communications Manager ノードまたは IM and Presence ノードのアップグレード後に実行する必要がある作業について説明します。

- [すべてのノードのアップグレード後の作業, 57 ページ](#)
- [Cisco Unified Communications Manager ノードのアップグレード後の作業, 65 ページ](#)
- [IM and Presence ノードのアップグレード後の作業, 69 ページ](#)

すべてのノードのアップグレード後の作業

ここでは、Unified Communications Manager ノードと IM and Presence サービス ノードの両方に対して実行する必要があるアップグレード後の作業について説明します。

VMware ツールの更新

アップグレードが完了したら、VMware ツールを更新する必要があります。VMware ツールを更新するには、次の 2 つのオプションがあります。

- 自動ツール アップグレード オプションを使用するようにツールを設定する。
- VM の電源投入時に自動的にツールのバージョンをチェックし、ツールをアップグレードするように設定する。

これらのオプションの設定方法については、VMware のマニュアルを参照してください。

ロケールのインストール

複数の言語をサポートする Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスを設定できます。インストール可能なサポート言語の数に制限はありません。

www.cisco.com には、ロケール固有のバージョンの Cisco Unified Communications Manager のロケール インストーラと IM and Presence サービスのロケール インストーラが用意されています。このロケール インストーラはシステム管理者がインストールします。このインストーラを使用すると、ユーザがサポートされているインターフェイスを使用するときに、選択した翻訳済みテキストまたはトーン（使用可能な場合）を表示または受信できます。

Cisco Unified Communications Manager または IM and Presence Service をアップグレードした後で、すべてのロケールを再インストールする必要があります。Cisco Unified Communications Manager ノードまたは IM and Presence Service ノードの major.minor バージョン番号と一致する、最新バージョンのロケールをインストールしてください。

クラスタの各ノードに Cisco Unified Communications Manager をインストールし、データベースをセットアップしてから、ロケールをインストールします。IM and Presence サービス ノードで特定のロケールをインストールする場合は、最初に Cisco Unified Communications Manager のクラスタで同じ国の Cisco Unified Communications Manager のロケール ファイルをインストールする必要があります。

ソフトウェアのアップグレードが完了した後に、Cisco Unified Communications Manager のノードと IM and Presence サービス ノードでロケールをインストールするには、次の項の情報を使用します。

ユーザ ロケール

ユーザ ロケール ファイルは、特定の言語と国に関する言語情報が含まれます。ユーザ ロケール ファイルは、ユーザが選択したロケールの電話機表示用の翻訳済みテキストとボイス プロンプト（使用可能な場合）、ユーザアプリケーション、および Web ページを提供します。これらのファイルは、次のファイル名の表記を使用します。

- cm-locale-language-country-version.cop (Cisco Unified Communications Manager)
- ps-locale-language_country-version.cop (IM and Presence Service)

システムでユーザ ロケールのみが必要な場合は、CUCM ロケールをインストールした後でそれをインストールします。

ネットワーク ロケール

ネットワーク ロケール ファイルは、電話トーン、Annunciator、ゲートウェイ トーンなど、さまざまなネットワーク項目の国固有のファイルを提供します。複合ネットワーク ロケール ファイル名の表記は、次のとおりです。

- cm-locale-combinednetworklocale-version.cop (Cisco Unified Communications Manager)

1 つのロケール インストーラに複数のネットワーク ロケールが組み合されている場合があります。



(注) シスコ承認の Cisco Unified Communications Manager の仮想化導入の顧客が提供するサーバは複数のロケールをサポートできます。複数のロケール インストーラをインストールすることにより、ユーザは複数のロケールから選択できるようになります。

ロケール ファイルは、ソフトウェア アップグレードをインストールする場合と同じプロセスを使用して、ローカル ソースまたはリモート ソースからインストールできます。クラスタの各ノードに、複数のロケール ファイルをインストールできます。クラスタ内のすべてのノードをリブートしないと、変更は有効になりません。クラスタ内のすべてのノードですべてのロケールのインストールが終了するまで、ノードをリブートしないように強くお勧めします。通常の業務時間後にノードをリブートして、コール処理の中断を最小限にとどめてください。

Cisco Unified Communications Manager へのロケール インストーラのインストール

ユーザ ロケール ファイルは、ユーザが選択したロケールのユーザ アプリケーションおよびユーザ Web ページに変換されたテキストを提供します。ユーザ ロケールは、国固有です。ノードにロケールをインストールするには、次の手順を実行します。(任意) ソフトウェアのアップグレード手順に従って、ローカルまたはリモートソースからロケールファイルをインストールできます。

はじめる前に

- Cisco Unified Communications Manager ロケール インストーラをインストールする前に、クラスタ内のすべてのノードに Cisco Unified Communications Manager をインストールします。
- 英語以外のロケールを使用する場合は、Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence の両方に適切な言語 インストーラをインストールする必要があります。ロケール インストーラがクラスタ内のすべてのノードにインストールされていることを確認します (サブスクライバ ノードよりも先に、Cisco Unified Communications Manager データベース パブリッシャ ノードにインストールします)。
- 適切なすべてのロケール インストーラが両方のシステムにロードされるまで、ユーザ ロケールを設定しないでください。ロケール インストーラが Cisco Unified Communications Manager にロードされた後であっても、IM and Presence にロードされる前にユーザがユーザ ロケールを設定してしまうと、問題が発生することがあります。問題が報告された場合は、各ユーザに対し、Cisco Unified Communications Manager の [ユーザ オプション (User Options)] ページにサインインし、ロケールを現在の設定から [英語 (English)] に変更してから適切な現在に戻すように指示することを推奨します。BAT ツールを使用してユーザ ロケールを適切な言語に同期することもできます。
- 変更を有効にするには、ノードを再起動する必要があります。ロケールのインストール手順がすべて完了したら、クラスタ内の各ノードを再起動します。クラスタ内のすべてのノードを再起動するまで、システム内で更新は行われません。ノードの再起動後にサービスが再開されます。

手順

- ステップ 1** `www.cisco.com` からロケール インストーラをダウンロードします。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager ロケール インストーラのバージョンをクリックします。
- ステップ 3** [ダウンロード (Download)] をクリックして、ノードにインストーラ ファイルをダウンロードします。
- ステップ 4** ファイルをダウンロードしたら、ハードドライブに保存し、ファイルの保存場所をメモします。
- ステップ 5** ファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。
- ステップ 6** 次の操作を実行してインストールを完了します。
- a) 使用許諾契約を読んで同意したら、[次へ (Next)] をクリックして [リリース ノート (Readme Notes)] ウィンドウを表示します。
 - (注) リリース ノートには、リリースされたビルドでサポートされるコンポーネントやデバイスなどのビルド時の情報が含まれます。リリース ノートは参照用に印刷できません。
 - b) 使用許諾契約を確認して同意し、[次へ (Next)] をクリックします。[セットアップの種類 (Setup Type)] ウィンドウが表示されます。
 - c) 必要に応じてユーザロケールを選択または選択解除できるように、[セットアップの種類 (Setup Type)] ウィンドウでカスタムセットアップタイプを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。[ファイルコピーの開始 (Start Copying Files)] ウィンドウが表示されます。
 - d) セットアップ オプションを確認し、[次へ (Next)] をクリックします。[プログラムをインストールする準備ができました (Ready to Install the Program)] ウィンドウが表示されます。
 - a) [インストール (Install)] をクリックして、選択したユーザロケールのインストールを開始します。
 - (注) インストールの所要時間は、ノードのパフォーマンスによって異なります。データベースの更新が完了するまで 2 ~ 10 分かかると推測されます。インストールのステータスを判別するには、経過表示バーとその上のテキストを監視します。
- ステップ 7** インストールが完了すると、新しいダイアログによって再起動の確認が要求されます。別のロケール インストーラを適用する場合は、ダウンタイムを短縮するために、この手順を繰り返してからノードを再起動します。
- ステップ 8** [終了 (Finish)] をクリックします。[セットアップ (Setup)] ダイアログボックスが表示されます。ボタンをクリックしたり、キーを押さないでください。
- ステップ 9** [セットアップ (Setup)] ダイアログボックスが自動的に終了し、ノードでのインストールが完了します。クラスタ内のすべてのノードに Cisco Unified Communications Manager ロケール インストーラをインストールします。
- ステップ 10** すべてのロケール インストール手順が完了したら、次の操作を実行します。
- a) CLI で `run sql update enduser set cucm_cdrtime=0` コマンドを実行します。
 - b) Cisco Unified サービスアビリティで Sync Agent サービスを再起動します ([ツール (Tools)] > [サービスの開始 (Service Activation)] を選択)。
 - c) クラスタ内の各ノードを再起動します。
- ステップ 11** ユーザがサポートされている製品のロケールを選択できることを確認します。

トラブルシューティングのヒント

クラスタ内のすべてのノードに同じコンポーネントをインストールしてください。

次の作業

[IM and Presence Service へのロケール インストーラのインストール](#), (61 ページ)

IM and Presence Service へのロケール インストーラのインストール

はじめる前に

- Cisco Unified Communications Manager にロケール インストーラをインストールします。英語以外のロケールを使用する場合は、Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence Service の両方に適切な言語 インストーラをインストールする必要があります。
- IM and Presence Service クラスタに複数のノードがある場合は、ロケール インストーラがクラスタ内のすべてのノードにインストールされていることを確認します (サブスクリバノードの前に IM and Presence データベース パブリッシャ ノードにインストールします)。
- 適切なすべてのロケール インストーラが両方のシステムにロードされるまで、ユーザロケールを設定しないでください。ロケール インストーラが Cisco Unified Communications Manager にロードされた後であっても、IM and Presence Service にロードされる前にユーザがユーザロケールを設定してしまうと、問題が発生することがあります。問題が報告された場合は、各ユーザに対し、Cisco Unified Communications Self Care Portal にサインインし、ロケールを現在の設定から [英語 (English)] に変更してから適切な言語に戻すように指示することを推奨します。BAT ツールを使用してユーザロケールを適切な言語に同期することもできます。
- 変更を有効にするためには、サーバを再起動する必要があります。ロケールのインストール手順がすべて完了したら、クラスタ内の各サーバを再起動してください。クラスタ内のすべてのサーバを再起動するまで、システム内で更新は行われません。サーバの再起動後にサービスが再開されます。

手順

- ステップ 1** [cisco.com](http://software.cisco.com/download/navigator.html?mdfid=285971059) に移動し、IM and Presence Service のバージョンのロケール インストーラを選択します。

- ステップ 2** 作業環境に適した IM and Presence ロケール インストーラのバージョンをクリックします。
- ステップ 3** ファイルをダウンロードしたら、ハードドライブに保存し、ファイルの保存場所をメモします。
- ステップ 4** SFTP をサポートするサーバにこのファイルをコピーします。
- ステップ 5** 管理者のアカウントとパスワードを使用して Cisco Unified IM and Presence オペレーティング システムの管理にサインインします。
- ステップ 6** [Software Upgrades (ソフトウェア アップグレード)] > [Install/Upgrade (インストール/アップグレード)] を選択します。
- ステップ 7** ソフトウェアの入手先として [リモートファイルシステム (Remote File System)] を選択します。
- ステップ 8** [ディレクトリ (Directory)] フィールドにファイルの保存場所 (/tmp など) を入力します。
- ステップ 9** [サーバ (Server)] フィールドに IM and Presence Service のサーバ名を入力します。
- ステップ 10** [ユーザ名 (User Name)] フィールドと [ユーザ パスワード (User Password)] フィールドに自分のユーザ名とパスワードを入力します。
- ステップ 11** [転送プロトコル (Transfer Protocol)] で [SFTP (SFTP)] を選択します。
- ステップ 12** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 13** 検索結果のリストから IM and Presence Service ロケール インストーラを選択します。
- ステップ 14** [次へ (Next)] をクリックして、インストーラ ファイルをロードし、検証します。
- ステップ 15** ロケールのインストールが完了したら、クラスタ内の各サーバを再起動します。
- ステップ 16** インストールされるロケールのデフォルト設定は、「英語 (米国) (English United States)」です。IM and Presence Service ノードの再起動中に、必要に応じて、ダウンロードしたインストーラのロケールに合わせてブラウザの言語を変更してください。
- (注) IM and Presence Service は現在 Safari ブラウザをサポートしていません。
- a) Internet Explorer バージョン 6.x を使用する場合は、次の手順を実行します。
- 1 [ツール (Tools)] > [インターネット オプション (Internet Options)] を選択します。
 - 2 [一般 (General)] タブを選択します。
 - 3 [言語 (Languages)] をクリックします。
 - 4 [上へ (Move Up)] ボタンを使用して、優先する言語をリストの先頭に移動します。
 - 5 [OK] をクリックします。
- b) Mozilla Firefox バージョン 3.x を使用する場合は、次の手順を実行します。
- 1 [ツール (Tools)] > [オプション (Options)] を選択します。
 - 2 [コンテンツ (Content)] タブを選択します。
 - 3 [言語 (Languages)] セクションの [選択 (Choose)] をクリックします。
 - 4 [上へ (Move Up)] ボタンを使用して、優先する言語をリストの先頭に移動します。
 - 5 [OK] をクリックします。

- ステップ 17** ユーザがサポートされている製品のロケールを選択できることを確認します。
- ヒント** クラスタ内のすべてのサーバに同じコンポーネントをインストールしてください。

エラー メッセージ

ロケールインストーラをアクティブ化するときに発生する可能性のあるメッセージの説明については、次の表を参照してください。エラーが発生した場合は、インストールログにあるメッセージを表示できます。

表 5: ロケールインストーラのエラー メッセージと説明

メッセージ	説明
[LOCALE] File not found: <language>_<country>_user_locale.csv, the user locale has not been added to the database.	データベースに追加するユーザ ロケール情報が格納されている CSV ファイルが見つからない場合にこのエラーが発生します。これはビルドプロセスのエラーを示しています。
[LOCALE] File not found: <country>_network_locale.csv, the network locale has not been added to the database.	データベースに追加するネットワーク ロケール情報が格納されている CSV ファイルが見つからない場合にこのエラーが発生します。これはビルドプロセスのエラーを示しています。

メッセージ	説明
<p>[LOCALE] Communications Manager CSV file installer installldb is not present or not executable</p>	<p>このエラーが発生するのは、installldb を呼び出した Cisco Unified Communications Manager アプリケーションが存在する必要があるためです。このアプリケーションによって CSV ファイルに含まれる情報を読み取り、Cisco Unified Communications Manager データベースに適切に適用します。このアプリケーションが見つからない場合は、Cisco Unified Communications Manager と共にインストールされていない（可能性は非常に低い）、削除された（可能性あり）、またはノードに Cisco Unified Communications Manager がインストールされていない（最も可能性あり）ことが想定されます。データベースに適切なレコードが格納されていないとロケールが機能しないため、ロケールのインストールは中止されます。</p>
<p>[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maDialogs_<ll>_<CC>.properties.Checksum.</p> <p>[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maMessages_<ll>_<CC>.properties.Checksum.</p> <p>[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maGlobalUI_<ll>_<CC>.properties.Checksum.</p> <p>[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/LocaleMasterVersion.txt.Checksum.</p>	<p>このエラーは、システムがチェックサムファイルの作成に失敗した場合に発生します。原因としては、Java 実行ファイル /usr/local/thirdparty/java/j2sdk/jre/bin/java が存在しない、Java アーカイブファイル /usr/local/cm/jar/cmutil.jar が存在しないか損傷している、Java クラス com.cisco.ccm.util.Zipper が存在しないか損傷していることなどが考えられます。これらのエラーが発生する場合でも、Cisco Unified Communications Manager Assistant を除いてロケールは引き続き正常に動作します。この場合、Cisco Unified Communications Manager Assistant では、ローカライズされた Cisco Unified Communications Manager Assistant ファイルの変化を検出できません。</p>

メッセージ	説明
[LOCALE] Could not find /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/LocaleMaster Version.txt in order to update Unified CM Assistant locale information.	このエラーは、適切な場所でファイルが見つからない場合に発生します。最も可能性が高い原因として、ビルドプロセスのエラーが考えられます。
[LOCALE] Addition of <RPM-file-name> to the Cisco Unified Communications Manager database has failed!	このエラーは、ロケールのインストール時に発生した何らかの障害が累積したことにより発生します。これは、最終的な状態を示しています。

対応製品

Cisco Unified Communications Manager のロケール インストーラがサポートする製品の一覧については、次の URL の Cisco Unified Communications Manager 用の Cisco IP Telephony のロケール インストーラを参照してください。

<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/callmgr-locale-51>

Cisco Unified Communications Manager ノードのアップグレード後の作業

ここでは、Cisco Unified Communications Manager ノードに対して実行する必要があるアップグレード後の作業について説明します。

設定の復元

アップグレードが完了したら、次の設定を復元します。

- **utils dbreplication setrepltimeout** CLI コマンドを使用してアップグレードのデータベース レプリケーションのタイムアウト値を変更した場合は、タイムアウトをデフォルト値の 300 (5 分) に戻します。詳細については、『*Command Line Interface Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。
- [Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)]>[ツール (Tools)]>[サービス開始 (Service Activation)]を選択して、Cisco Extension Mobility サービスを有効にします。詳細については、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。



-
- (注) Cisco Extension Mobility サービスを有効にしないと、Cisco Extension Mobility のユーザは、Cisco Extension Mobility をサポートする電話機でログインおよびログアウトできなくなります。
-

機能のテスト

アップグレードの完了後に、次の作業を実行してください。

- 次のタイプのコールを発信して、電話機能を確認します。
 - ボイスメール
 - 局間
 - 携帯電話
 - ローカル
 - 国内
 - 国際
 - 共有回線
- 次の電話機能をテストします。
 - 会議
 - 割込み
 - 転送
 - C 割り込み
 - 共有回線への着信
 - サイレント
 - プライバシー
 - プレゼンス
 - CTI コール制御
 - ビジー ランプ フィールド
- 必要に応じて、Real Time Monitoring Tool を再インストールします。

ダイヤルプランのインストール

ダイヤルプランファイルは、ソフトウェアアップグレードをインストールする場合と同じプロセスを使用して、ローカルソースまたはリモートソースからインストールできます。ローカルソースまたはリモートソースからのアップグレードの詳細については、『*Upgrade Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

ダイヤルプランファイルをシステムにインストールした後、Cisco Unified CM Administration にログインし、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルプランインストーラ (Dial Plan Installer)] に移動して、ダイヤルプランのインストールを完了します。

TFTP サーバ ファイルの管理

電話機で使用するファイルを TFTP サーバにアップロードできます。アップロード可能なファイルには、カスタム呼出音、コールバックトーン、および背景画像などがあります。このオプションは接続先の特定のサーバにのみファイルをアップロードするもので、クラスタ内の他のノードはアップグレードされません。

デフォルトでは、ファイルは `tftp` ディレクトリにアップロードされます。`tftp` ディレクトリのサブディレクトリにもファイルをアップロードできます。

クラスタ内に 2 台の Cisco TFTP サーバが設定されている場合は、両方のサーバで次の手順を実行する必要があります。この手順を実行しても、ファイルがすべてのサーバに配信されるわけではなく、クラスタ内の 2 台の Cisco TFTP サーバにも配信されません。

TFTP サーバファイルをアップロードまたは削除するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 (Cisco Unified Communications Operating System Administration)] ウィンドウで、[ソフトウェアのアップグレード (Software Upgrades)] > [TFTP] > [ファイルの管理 (File Management)] を選択します。
[TFTP ファイルの管理 (TFTP File Management)] ウィンドウが表示され、現在アップロードされているファイルの一覧が表示されます。[検索 (Find)] を使用すると、ファイルの一覧をフィルタリングできます。
- ステップ 2** ファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。
- [ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。
[ファイルのアップロード (Upload File)] ダイアログボックスが表示されます。
 - ファイルをアップロードするには、[参照 (Browse)] をクリックし、アップロードするファイルを選択します。
 - `tftp` ディレクトリのサブディレクトリにファイルをアップロードするには、[ディレクトリ (Directory)] フィールドにサブディレクトリを入力します。
 - アップロードを開始するには、[ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。

ファイルのアップロードに成功すると、[ステータス (Status)] 領域にそのことが表示されます。

- e) ファイルをアップロードしたら、Cisco TFTP サービスを再起動します。
 (注) 複数のファイルをアップロードする場合は、すべてのファイルをアップロードした後に Cisco TFTP サービスを一度だけ再起動します。
 サービスの再起動については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

ステップ 3 ファイルを削除するには、次の手順を実行します。

- a) 削除するファイルの横にあるチェックボックスをオンにします。
 また、[すべてを選択 (Select All)] をクリックするとすべてのファイルを選択でき、[すべてをクリア (Clear All)] をクリックするとすべての選択をクリアできます。
- b) [Delete Selected] をクリックします。
 (注) tftp ディレクトリ内の既存のファイルを修正する場合は、CLI コマンド **file list tftp** を使用して TFTP ディレクトリ内のファイルを表示し、**file get tftp** を使用して TFTP ディレクトリ内のファイルをコピーします。詳細については、『Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions』を参照してください。

カスタム ログインメッセージのセットアップ

カスタマイズしたログインメッセージを含むテキストファイルをアップロードして、Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理、Cisco Unified CM の管理、Cisco Unified サービスアビリティ、ディザスタリカバリシステムの管理、Cisco Prime License Manager、およびコマンドラインインターフェイスに表示することができます。

カスタマイズされたログインメッセージをアップロードするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理 (Cisco Unified Communications Operating System Administration)] ウィンドウで、[アップグレード (Upgrades)] > [ログインメッセージのカスタマイズ (Customized Logon Message)] を選択します。
 [ログインメッセージのカスタマイズ (Customized Logon Message)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** アップロードするテキストファイルを選択するには、[参照 (Browse)] をクリックします。
- ステップ 3** [ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。
 (注) アップロードできるファイルは 10 KB 以内です。
 システムにカスタマイズされたログインメッセージが表示されます。
- ステップ 4** デフォルトのログインメッセージに戻すには、[削除 (Delete)] をクリックします。

カスタマイズされたログインメッセージが削除され、システムにデフォルトのログインメッセージが表示されます。

- (注) Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理、Cisco Unified CM の管理、Cisco Unified サービスアビリティ、ディザスタ リカバリ システムの管理、Cisco Prime License Manager、およびコマンドライン インターフェイスのログイン画面にカスタムメッセージを表示するには、[ユーザの承認が必要 (Require User Acknowledgment)] チェックボックスをオンにします。

IPsec ポリシーの設定

Unified Communications Manager リリース 6.1(5)以前からアップグレードする場合は、アップグレードの完了後に IPsec ポリシーを再作成する必要があります。リリース 6.1(5)以前の IPsec ポリシーの設定情報は、アップグレードプロセスの一部として移行されません。IPsec ポリシーの作成方法については、『*Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

廃止されたクラスタ間ピアユーザおよび管理者 CUMA への新しいロールの割り当て

アプリケーション ユーザ グループ ロールの「クラスタ間ピアユーザ」と「管理者 CUMA」は、リリース 10.0(1) から廃止されました。リリース 8.x または 9.x でこれらのロールを設定されたアプリケーション ユーザは、リリース 10.x へのアップグレード中にロールが削除されます。アップグレード後、管理者はこれらのユーザに適切なロールを設定する必要があります。



- (注) クラスタ間で適切に機能させるには、IM and Presence サービス ユーザ インターフェイス ([プレゼンス (Presence)] > [クラスタ間設定 (Inter-Clustering)]) で定義された AXL ユーザを、Cisco Unified Communications Manager アプリケーション ユーザ ページで Standard AXL API Access ロールに関連付ける必要があります。

IM and Presence ノードのアップグレード後の作業

ここでは、IM and Presence サービスのアップグレード後の作業について説明します。

IM and Presence サービスのデータ移行の検証

Cisco Unified Presence Release 8.x から IM and Presence サービスのリリース 9.x 以降にアップグレードすると、ユーザ プロファイルが Cisco Unified Communications Manager に移行されます。

ユーザプロフィール情報は、次の名前と説明の形式で、新しいサービスプロフィールとして Cisco Unified Communications Manager に保存されます。

名前：UCServiceProfile_Migration_x (x は、1 以降の番号)

説明：移行済みサービス プロファイル番号 x

Cisco Unified Presence Release 8.x からアップグレード後に Cisco Jabber に正常にログインできるようにするには、ユーザプロフィールデータの移行が正しく行われたことを確認する必要があります。

作成されたが、ユーザに割り当てられていないプロフィールは Cisco Unified Communications Manager に移行されません。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [サービス プロファイル (Service Profile)] を選択します。
 - ステップ 2 すべてのサービス プロファイルをリストするには、[検索 (Find)] を選択します。
 - ステップ 3 次の名前形式を持つ、移行済みサービス プロファイルがあることを確認します。
UCServiceProfile_Migration_x
 - ステップ 4 移行済みサービス プロファイルがない場合は、installdb log ファイルでエラーがないか確認します。
 - ステップ 5 データの移行に失敗すると、Cisco Unified Communications Manager でインポートエラー アラームが発生し、Cisco Sync Agent から Cisco Unified CM IM and Presence の管理 GUI に障害通知が送信されます。
ヒント アラームの詳細を見るには、RTMT for Cisco Unified Communications Manager にログインします。
-

次の作業

サービス プロファイルを編集し、意味のある名前に変更できます。サービス プロファイルの設定の詳細については、『*Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

高可用性

展開でハイ アベイラビリティをサポートする場合は、システムのアップグレード後に各プレゼンス冗長グループのハイ アベイラビリティ設定をオンに戻す必要があります。ハイアベイラビリティを有効にする前に、バージョンを切り替え、データベース レプリケーションを完了し、すべてのサービスを再起動してください。ハイ アベイラビリティを有効にする方法については、『*Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。



第 7 章

トラブルシューティング

ここでは、次の内容について説明します。

- [Unified Communications Manager のアップグレードに関するトラブルシューティング](#), 71 ページ
- [IM and Presence のアップグレードに関するトラブルシューティング](#), 74 ページ

Unified Communications Manager のアップグレードに関するトラブルシューティング

ここでは、Unified Communications Manager のアップグレードに関するトラブルシューティング情報を示します。

アップグレードの失敗

問題 Unified Communications Manager パブリッシャ ノードをアップグレードし、新しいバージョンに切り替えた後にサブスライバノードのアップグレードに失敗、またはアップグレードサイクル中に、クラスタのサブスライバ ノードのいずれかのアップグレードに失敗します。

解決法 次のいずれかを実行します。

- 後続のノードで、アップグレードの失敗の原因となったエラーを修正します。クラスタ内のノードのネットワーク接続を確認し、サブスライバノードをリブートしてから、サブスライバノードのサーバメモリおよび CPU 使用率が高すぎないかを確認してください。サブスライバノードを再度アップグレードします。
- Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのアクティブパーティションが、サーバにインストールされている最新のソフトウェアバージョンを実行していることを確認します。パブリッシャノードのアクティブパーティションで実行されているのと同じソフトウェアバージョンを使用して、サブスライバノードで更新インストールを実行します。サブスライバノードを再インストールする場合は、『*Administration Guide for Cisco Unified*

『*Communications Manager*』の手順に従って、Cisco Unified CM Administration からサーバを削除し、そのサーバを再度追加します。

ディスク領域不足によるアップグレードの失敗

問題 Unified Communications Manager のアップグレードに失敗し、共通パーティションがいっぱいであることを示すエラーが表示されます。

解決法 通常、共通パーティション領域として少なくとも 25GB が必要です。ただし、多数の TFTP データ（デバイスファームウェアのロード）や保留音（MOH）ファイルがある場合、または多数のロケールファイルがインストールされている場合は、展開においてさらに多くの領域が必要となることがあります。追加のディスク領域を作成するには、次の 1 つ以上の作業を実行します。

- Cisco Log Partition Monitoring Tool を使用して、基準値の上限と下限を調整し、トレースの削減と不要ログファイルの削除を行います。下限値を 30、上限値を 40 に調整することをお勧めします。トレースの早すぎるパージを避けるために、アップグレード後、基準値の上限と下限を元の値に戻す必要があります。基準値のデフォルトの上限は 85 です。基準値のデフォルトの下限は 80 です。Cisco Log Partition Monitoring Tool の使用方法については、『*Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide*』を参照してください。
- 仮想環境のディスク領域に余裕がある場合は、Disk Expansion COP ファイル（`ciscocm.vmware-disk-size-reallocation-<latest_version>.cop.sgn`）を使用して、vDisk のサイズを拡大します。先に進む前に、この COP ファイルに関する Readme ファイルを確認してください。
- Free Common Space COP ファイル（`ciscocm.free_common_space_v<latest_version>.cop.sgn`）を使用します。この COP ファイルを使用すると、システムを再構築することなく、共通パーティションの非アクティブ側を削除して使用可能なディスク領域を増やすことができます。先に進む前に、この COP ファイルに関する Readme ファイルを確認してください。
- TFTP ディレクトリから古いまたは未使用のファームウェア ファイルを手動で削除します。OS 管理インターフェイスの [TFTP ファイルの管理 (TFTP File Management)] ページを使用してこれらのファイルを削除するか、コマンドラインインターフェイスで `file list tftp` と `file delete tftp` コマンドを使用できます。

COP ファイルと Readme ファイルは、Cisco.com からダウンロードできます。[サポート (Support)] > [ダウンロード (Downloads)] > [Cisco Unified Communications Manager Version 10.0] > [Unified Communications Manager/CallManager/Cisco Unity Connection ユーティリティ (Unified Communications Manager/CallManager/Cisco Unity Connection Utilities)] に移動してください。

アクセス コントロール グループの権限が縮小される

問題 既存のユーザに新しいアクセス コントロール グループを追加すると、一部の既存アクセス コントロール グループの権限レベルが予期せず縮小します。

解決法 ユーザは複数のアクセス コントロール グループに属することができます。“Effective Access Privileges for Overlapping User Groups and Roles” エンタープライズ パラメータが最小限に設定され

ている場合に、既存のユーザに新しいアクセスコントロールグループを追加すると、一部の既存アクセスコントロールグループの現在の権限レベルが低下することがあります。

アクセス権限の縮小は、Cisco Unified CM Administration のアップグレード中などに、意図せず生じることがあります。アップグレードバージョンで、“Effective Access Privileges for Overlapping User Groups and Roles” エンタープライズパラメータが最小に設定されている Standard RealTimeAndTrace Collection ユーザグループがサポートされている場合は、アップグレード中に全ユーザがそのユーザグループに自動的に追加されます。この権限問題を解決するために、Standard RealTimeAndTrace Collection ユーザグループからユーザを削除することができます。

電話機の設定の消失

Cisco Unified Communications Manager をインストールした後の短期間、または別の製品バージョンにアップグレードした後のスイッチオーバー中に、電話機ユーザが行った設定変更がリセットされることがあります。電話機ユーザが行う設定には、コール転送やメッセージ待機インジケータの設定などがあります。この現象は、インストールまたはアップグレード後に Cisco Unified Communications Manager によってデータベースの同期が行われるために発生します。つまり、電話機ユーザによる設定変更が上書きされる可能性があります。

Unified Communications Manager パブリッシャノードのアップグレード後の障害

問題 アップグレードに成功し、クラスタが新しいリリースを実行していますが、以降、Unified Communications Manager パブリッシャノードで障害が発生します。

解決法 次のいずれかを実行します。

- DRS バックアップファイルを使用して、Unified Communications Manager パブリッシャノードを復元します。
- DRS バックアップファイルがない場合は、IM and Presence サービスノードを含めて、クラスタ全体を再インストールします。

Unified Communications Manager サブスクライバノードのアップグレード後の障害

問題 アップグレードに成功し、クラスタが新しいリリースを実行していますが、以降、Unified Communications Manager サブスクライバノードで障害が発生します。

解決法 次のいずれかを実行します。

- DRS バックアップファイルを使用して、Unified Communications Manager サブスクライバノードを復元します。

- DRS バックアップ ファイルがない場合は、サブスクリバ ノードのアップグレードを再び実行します。再インストールする前に、Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのサーバ ページからサブスクリバ ノードを削除する必要はありません。

IMandPresenceのアップグレードに関するトラブルシューティング

ここでは、IM and Presence サービスのアップグレードに関するトラブルシューティング情報を示します。

IM and Presence データベース パブリッシャ ノードのアップグレードに失敗

問題 Unified Communications Manager と IM and Presence の両方のノードを含むマルチノード クラスタをアップグレードするときに、IM and Presence データベース パブリッシャ ノードのアップグレードに失敗します。

解決法 実行するアクションは、障害が発生したポイントに応じて異なります。

- 更新アップグレードの前に IM and Presence データベース パブリッシャ ノードでアップグレードを実行したことにより、ノードが再起動した場合（つまり、新しいパーティションに切り替える前にノードで障害が発生した場合）は、IM and Presence データベース パブリッシャ ノードでアップグレードを再度実行します。
- IM and Presence データベース パブリッシャ ノードを新しいバージョンに切り替えた後に、障害が発生した場合は、すべてのノードをスイッチバックして、アップグレードを再度実行する必要があります。以下に示す順序でタスクを実行します。
 - Unified Communications Manager パブリッシャ ノードをスイッチバックします。
 - Unified Communications Manager サブスクリバ ノードをスイッチバックします。
 - IM and Presence データベース パブリッシャ ノードをスイッチバックします。
 - Unified Communications Manager パブリッシャ ノードを再度アップグレードします。
 - Unified Communications Manager パブリッシャ ノードを新しいソフトウェア バージョンに切り替えます。
 - Unified Communications Manager サブスクリバ ノードを再度アップグレードします。
 - Unified Communications Manager サブスクリバ ノードを新しいソフトウェア バージョンに切り替えます。
 - IM and Presence データベース パブリッシャ ノードを再度アップグレードします。

IM and Presence サブスクリバノードのアップグレードに失敗

問題 Unified Communications Manager と IM and Presence の両方のノードを含むマルチノードクラスターをアップグレードするときに、IM and Presence サブスクリバノードのアップグレードに失敗します。

解決法 実行するアクションは、障害が発生したポイントに応じて異なります。

- 更新アップグレードの前に IM and Presence サブスクリバノードでアップグレードを実行したことにより、ノードが再起動した場合（つまり、新しいパーティションに切り替える前にノードで障害が発生した場合は、IM and Presence サブスクリバノードでアップグレードを再度実行します。
- IM and Presence サブスクリバノードを新しいバージョンに切り替えた後に、ノードでのアップグレードに失敗した場合は、以下に示す順序でタスクを実行する必要があります。
 - Unified Communications Manager パブリッシャ ノードを以前のソフトウェアバージョンに切り替えます。
 - Unified Communications Manager サブスクリバノードを以前のソフトウェアバージョンに切り替えます。
 - IM and Presence データベース パブリッシャ ノードを以前のソフトウェアバージョンに切り替えます。
 - IM and Presence サブスクリバノードを以前のソフトウェアバージョンに切り替えます。
 - Unified Communications Manager パブリッシャ ノードを新しいソフトウェアバージョンに切り替えます。
 - IM and Presence データベース パブリッシャ ノードを新しいソフトウェアバージョンに切り替えます。
 - IM and Presence サブスクリバノードで再度アップグレードを実行します。

プレリリース 8.6(4) からのアップグレードに失敗

問題 Cisco Unified Presence 8.6(4) よりも前のリリースからアップグレードし、パブリッシャノードとサブスクリバノードの両方でアップグレードに失敗しました。

解決法 Cisco Unified Communications Manager のホスト名には大文字と小文字の区別があります。Cisco Unified Presence Administration インターフェイス上の Cisco Unified Communications Manager パブリッシャノードのエントリが、Cisco Unified Communications Manager のホスト名と正確に一致していることを確認してください。次の手順を実行します。

- 1 **Cisco Unified Presence Administration** インターフェイスにログインし、[システム (System)] > [CUCM パブリッシャ (CUCM Publisher)] を選択します

- 2 [CUCM パブリッシャのホスト名 (CUCM Publisher Hostname)] の値がホスト名と一致しない場合は、それを変更して、[保存 (Save)] をクリックします。
- 3 CLI コマンド **utils service restart Cluster Manager** を使用して、Cluster Manager サービスを再起動します。
- 4 /usr/local/platform/conf/ にある platformConfig.xml ファイルを開きます。
- 5 *IPSecMasterHost* と *NTPServerHost* の値が Cisco Unified Communications Manager のホスト名と正確に一致していることを確認します。
- 6 必要に応じて、*IPSecMasterHost* と *NTPServerHost* の値を変更し、platformConfig.xml ファイルを保存して、Cluster Manager サービスを再起動します。

IM and Presence ユーザ電話のプレゼンスの問題

問題 IM and Presence サーバのアップグレード後に、すべてのアクティブ化された機能サービスとネットワークサービスの開始時に、ユーザの IM and Presence 電話のプレゼンスは更新に時間がかかったり、遅くなったりします。

解決法 Cisco SIP Proxy サービスを再起動する必要があります。Cisco Unified IM and Presence サービスアビリティで、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Features Services)] を選択します。

Presence ユーザによるアベイラビリティの取得で問題が発生する

問題 IM and Presence サービスサーバのアップグレード後、すべてのアクティブ化された機能サービスとネットワークサービスの開始時に、プレゼンスアベイラビリティの不整合が発生します。ユーザは IM and Presence サービスにログインできますが、主に SIP ベースのクライアントからのアベイラビリティ情報の取得で問題が発生します。

解決法 この問題は、IM and Presence サービスのアップグレード中にユーザがプロビジョニングされている場合に発生します。ユーザを割り当て解除してから、再度割り当てる必要があります。

Cisco SIP Proxy サービスのリアルタイム モニタリング ツールのアラート

問題 IM and Presence サーバがアップグレードされ、アクティブになったすべての機能サービスとネットワークサービスが起動すると、リアルタイム モニタリング ツール CoreDumpFileFound アラートが Cisco SIP Proxy サービスによって生成されます。

解決法 Cisco SIP Proxy サービスを再起動する必要があります。Cisco Unified IM and Presence サービスアビリティで、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Features Services)] を選択します。

リモートサーバのアップグレードファイルが見つからない

問題 リモートサーバのアップグレードファイルが見つかりません。

解決法 アップグレードファイルがLinuxまたはUNIXサーバ上に存在する場合は、指定するディレクトリパスの先頭にフォワードスラッシュを付加する必要があります。たとえば、アップグレードファイルが `patches` ディレクトリに存在する場合は、`/patches` と入力する必要があります。アップグレードファイルがWindowsサーバ上にある場合は、正しいディレクトリパスについてシステム管理者に問い合わせてください。

アップグレードファイルのチェックサム値が一致しない

問題 アップグレードファイルのチェックサム値と、Cisco.com に示されるチェックサムが一致しません。

解決法 アップグレードファイルが本物の整合性のあるファイルであると保証するには、2つのチェックサム値が一致している必要があります。チェックサム値が一致しない場合、Cisco.com から新しいバージョンのファイルをダウンロードして、再度アップグレードを試みてください。

データベースレプリケーションが完了しなかった

問題 アップグレード後、データベースレプリケーションが完了せず、`utils dbreplication runtimestate` コマンドの結果が2ではありませんでした。

解決法 アップグレードを完了し、新しいソフトウェアにバージョンを切り替えると、データベースレプリケーションが自動的に実行されます。この処理中に、サブスクリバノードのコアサービスは起動しません。大規模な展開のデータベースレプリケーションの場合、完了するまで数時間かかる可能性があります。数時間後に `utils dbreplication runtimestate` コマンドを実行しても、データベースレプリケーションが完了していないと示される場合は、データベースレプリケーションをリセットする必要があります。パブリッシャノードで、次のコマンドを実行します。`utils dbreplication reset all`

Cisco UP Presence Engine データベースが再起動しない

問題 Cisco Unified Presence Release 8.6(3)以前のソフトウェアバージョンに切り替えた後に、Cisco UP Presence Engine データベースが再起動しません。

解決法 Cisco Unified Presence Release 8.6(3)以前に切り替えた後に、必須の COP ファイル `ciscocm.cup.pe_db_install.cop` がクラスタの全ノードにインストールされていることを確認します。

バージョンエラー

選択したアップグレードが現行バージョンで許可されていない

問題 更新アップグレード時に、「エラーが発生しました。選択したアップグレードは現在のバージョンでは許可されていません (Error encountered: The selected upgrade is disallowed from the current version)」というエラーが報告されます。

解決法 必須の COP ファイルがノードにインストールされていません。Cisco.com から COP ファイル `ciscocm.cup.refresh_upgrade_v<latest_version>.cop` をダウンロードします。サーバを再起動します。更新アップグレードを再試行する前に、クラスタ内のすべてのノードに COP ファイルをインストールします。

バージョンがアクティブまたは非アクティブバージョンと一致しない

問題 Cisco IM and Presence サーバでのアップグレード中、ディスクまたはリモートディレクトリからソフトウェアイメージを選択できません。次のエラーが報告されます：名前から取得されたバージョンは、パブリッシャのアクティブなバージョンとも非アクティブなバージョンとも一致しません。(The version obtained from the name does not match the active or inactive version of the publisher.)

解決法 バージョンの一致ルールに適合していません。ソフトウェアのバージョンは次の要件を満たす必要があります。

- IM and Presence データベースパブリッシャノード（最初にアップグレードする IM and Presence ノード）のソフトウェアバージョンが、Unified Communications Manager パブリッシャノードにインストールされているソフトウェアバージョンの先頭の2つの番号と一致している必要があります。Unified Communications Manager パブリッシャノードにインストールされているソフトウェアのバージョンは、アクティブでも非アクティブでもかまいません。たとえば、IM and Presence サービスのソフトウェアバージョン 10.0.1.10000-1 は、Cisco Unified Communications Manager のソフトウェアバージョン 10.0.1.30000-2 と互換性があります。
- アップグレードする IM and Presence サブスクリバノードのソフトウェアバージョンが、IM and Presence データベースパブリッシャノードにインストールされているソフトウェアバージョンの5つの番号と一致している必要があります。

アップグレードする最初のノードが Unified Communications Manager パブリッシャ ノードまたは IM and Presence データベース パブリッシャ ノードであることを確認するか、またはソフトウェア アップグレードに別のイメージを選択します。

Cisco IM and Presence ノードのバージョンの切り替えに失敗する

問題 Cisco IM and Presence ノードのバージョンの切り替えに失敗します。次のエラーが報告されます：バージョンの不一致。(Version mismatch.) パブリッシャのバージョンを切り替えて、再試行してください。(Please switch versions on the publisher and try again.)

解決法 バージョンの一致ルールに適合していません。ソフトウェアのバージョンは次の要件を満たす必要があります。

- IM and Presence データベース パブリッシャ ノード（最初にアップグレードする IM and Presence ノード）のソフトウェアバージョンが、Unified Communications Manager パブリッシャ ノードにインストールされているソフトウェアバージョンの先頭の2つの番号と一致している必要があります。たとえば、IM and Presence サービスのソフトウェアバージョン 10.0.1.10000-1 は、Cisco Unified Communications Manager のソフトウェアバージョン 10.0.1.30000-2 と互換性があります。
- アップグレードする IM and Presence サブスクライバ ノードのソフトウェアバージョンが、IM and Presence データベース パブリッシャ ノードにインストールされているソフトウェアバージョンの5つの番号と一致している必要があります。

このエラーを解決するには、切り替える1番目のノードスイッチが、Unified Communications Manager パブリッシャ ノードまたは IM and Presence データベース パブリッシャ ノードのどちらであるかを確認します。

更新アップグレードに失敗した

問題 更新アップグレードに失敗しました。

解決法 システムを再起動します。更新アップグレードの前に実行していたソフトウェアバージョンでリポートされます。システムにアクセスできない場合、リカバリ CD を使用してノードを回復する必要があります。

アップグレードのキャンセルまたは失敗

いずれかの段階でアップグレードをキャンセルした場合、またはアップグレードが失敗した場合は、IM and Presence サーバをリポートしてから、もう一度アップグレードを実行してください。

ディレクトリが検出されたが、有効なオプションまたはアップグレードがない

問題 IM and Presence サービスのアップグレード時は、アップデートパスとファイルが有効であっても、IM and Presence サービスによって次のエラーメッセージが生成されます。

指定されたディレクトリが見つかり、検索されましたが、有効なオプションまたはアップグレードがありませんでした。(The directory was located and searched but no valid options or upgrades were available.) 注: マシンをダウンロードできないため、以前のリリースのオプションとアップグレードファイルが無視されました。(Note, a machine cannot be downgraded so option and upgrade files for previous releases were ignored)

解決法 アップグレード中、アップグレードマネージャはIM and Presence サービスと Cisco Unified Communications Manager 間の接続をチェックして、バージョンを確認します。これに失敗すると、アップグレードパスとファイルが有効であっても、IM and Presence サービスサーバによりエラーメッセージが生成されます。Cisco Unified CM IM and Presence Administration システム トラブルシュータなどのツールを使用して、IM and Presence サービスと Cisco Unified Communications Manager 間に接続が確立されていることを確認します。

共通パーティションの完全アップグレードの失敗

問題 IM and Presence サービスのアップグレードに失敗し、共通パーティションがいっぱいであることを示すエラーが表示されます。

解決法 COP ファイル (ciscocm.free_common_cup_space_v<latest_version>.cop.sgn) をダウンロードして適用します。COP ファイルは、共通パーティションをクリーンアップして、その後のアップグレードが通常どおりに進行するようにします。